

らずして休業せり。然るに同氏は時の省長常藤槐氏の知遇を受けたるを以て電燈廠再興の爲に同省長より哈大洋貳拾貳萬元の補助を受くる諒解の下に新たに發電機を購入し、電氣供給の旁ら製粉業をも兼營せむとせる折柄省長の死去に逢ひ進退窮して日資を求めたることあり、我社に於ても之に對し善處の途を講ぜむとしたれども、投資の確實を期し難かりしを以て右要求を容れざりき。然るに一方注文したる機器は既に到來したるに依り、楊氏は百方奔走して漸く資金を得、昭和五年五月より運轉を開始せり。此の間昭和三、四年頃供給燈數二千燈に達せしことありたるも新機器増設前後より、市況不振及設備不完全の爲需要漸減し業績頓みに振はず。直流百二KW及二十五KW發電機を以て僅々七百六十六燈を供給する状態にて毎月數百元の損失を招くに至れり。斯かる状態にては到底經營の持續不能とのことにて我社に之が救済方を求むるところありたるを以て八年三月國幣貳萬元を貸付け委任經營をなし、連山關營業所の四五KWデゼルを移設し更に瓦房店電燈態岳城の七五KWデゼルを移設し政府の日滿合辦の方針に従ひ九年八月克山電業股份有限公司の成立を見たり。資本金五萬圓興業費七萬圓而して十二月二十七日には北安鎮訥河の合辦許可指令ありたれば資本金四十萬圓に増加の筈にして將來泰安鎮海倫をも供給區域となす豫定なり。

一、發電設備

製作者 ウェステンゲハウス 容量七五KW 電壓三、三〇〇V サイクル五〇 臺數一基

汽 機

製作者 三菱 容量七五KW 種類 デーゼル 電壓三、三〇〇V サイクル五〇 臺數一基  
六〇馬力 スライプデーセル直結  
三菱一〇〇馬力

汽 罐 なし

二、需要狀況(九・八)

燈 數	定 額	三三四戶	七七〇燈
	從 量	四七戶	八二〇燈
	街 燈		一一〇燈
計		三八一戶	一七〇〇燈

三、從 事 員

代 表 者 新妻新二郎  
其 他 一六名

納 河

昭和四年頃土地の王氏外二三氏出資のもとに電燈廠開設なせど事變前後より匪害により停止せり。治安回復と同時に實業廳日本軍隊縣令部縣參事等の懇懇により克山電業に於て之が舊汽機を買収なしして發電所を新設し實業部の許可を待てり。

發電機 三七五W

汽機 四八五馬力 クロスメイデーセルエンジン  
 燈 數 一二〇〇燈の豫定

### 一七 赤峰電燈廠

大正十年邦人三原作一氏滿鐵より資金拾五萬元の融通を受け、丁文化氏外六名との間に借款契約を締結し、同年八月三十日外資の介在せざるを條件として電燈廠設立方許可を得たるも滿鐵より交付されたる拾五萬元(日金換算拾六萬圓貳千貳百四拾圓)は調査費運動費の名目の下に何かに浪費され、同十二年九月發電所の建物煙突の竣成を見たるのみにて既に資金の枯渇に達着したるを以て同十三年六月滿鐵に對し更に貳萬元の追加借款を申込みたるも滿鐵は之を拒絶したり。

然るに同十四年八月熱河都統より發起人に對し外資介在を理由として該公司の資産を沒收すべき旨の公文發せられたるを以て、三原氏は滿鐵と協議の上貳萬元を以て當時の赤峰開埠局長黃振名氏に一切を讓渡せり。

其の後丁樹森氏なるもの年餘雨露に曝されたる機器を整備し、且熱河興業銀行より資金の融通を受け漸く同十五年八月營業を開始したり。

爾後年々缺損を續けたるも昭和六年四月當時の廠長丁耀宗氏赤峰興業銀行經理營々業務の改善を行ひ同七年に於ては壹千四百餘元の利益を見るに至りたり。

熱河聖戰の後滿洲中央銀行は赤峰支行に命じ暫く本事業を管理せしめつゝありしが五月七日關東軍は當分我社に之が委任經營方指令するところありたれば新規需要に應ずる爲發電機デーゼル百KW一臺の増設を行ひ之が所營資金を投資せり、將來合辦會社設立のもとに之が經要中なり。

#### 一、資本金(九・一)

公稱資本金	國幣	一四〇,〇〇〇元
拂込資本金	同	一四〇,〇〇〇元
借入金	同	二九九,四〇〇元
興業費	同	一六〇,八四二元

#### 二、發電所設備(八・九)

發電機	製作者WH 種類三相交流 電壓二三〇〇V 廻轉數二一四回 周波數五〇 容量六〇KW 臺數一基
汽罐	製作者米クルンエンドウエートナ 汽壓一〇〇封度 加熱面積二二〇〇平方呎 臺數一基
汽機	製作者アメスカイロンソリス 種類橫型單汽筒 馬力數九〇馬力 廻轉數二一四回 臺數一基
電	三、内外線設備(八・九) 高壓二三〇〇V 低壓一一〇V
各説	

各 說

電氣方式 單相三線及二線式

電柱本數 二一〇本

變壓器 一八臺 總容量一〇KVA

四、需要狀況(九・二二)

電燈數

定額燈 五〇二戶 一四五三燈

從量燈 五三戶 一二四四燈

街燈 五五五戶 二〇七燈

計

二、九〇四燈

五、從事員(九・二二)

代表者 吉田信

其他 三〇人

### 一八 錦縣電氣股份有限公司

大正八年容量二百KW交流發電機を新設し、大正十四年に至り三百KW交流發電機を増設す  
資本金現大洋拾七萬壹千五百七拾元なり、昭和七年一月其の筋の依頼に依り電氣施設の保持の  
ため社員を派遣して今日に至る、遼西開拓に連れ營業益々發展し昭和八年五〇〇KW一臺増設  
せり次で九年吳氏所有株を奉天電燈廠買収す。

一、資本金(八・二二)

公稱資本金 國幣 一七二、五七〇元

拂込資本金 同 一七二、五七〇元

借入金 同 一〇七、七一八元

興業費 同 三二、三一三元

二、發電所設備(九・二二)

發電機

製作者G.E. 種類三相交流 電壓二、三〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回 容量二〇〇KW

三〇〇KW 及五〇〇KW 臺數三基

汽 罐

製作者スターリンク及B&W 汽壓二〇〇及一五〇封度 馬力數二〇〇及一五〇馬力 スタリ

ク臺數一基B&W 臺數二基

汽 機

製作者G.E. 種類カーチスタービン 馬力數三〇〇KW二〇〇及五〇〇KW 廻轉數三、六〇〇回

臺數三基

三、内外線設備(八・二)

電 壓 高壓二、三〇〇V 低壓一〇〇V

電氣方式 三相三線式

電柱本數 八二七本

變壓器 電燈用 臺數六〇臺 總容量四一三KVA

電力用 同 三八臺 同 二六九KVA

各 說

四、需要狀況(八・二)

電 燈 數

計 數

一、四二〇戶

一七七一二燈

電 力 容 量

三六臺

三二三三馬力

五、從 事 員(八・一)

經 理

蘇廣倫

工程師 李湘

其 他

九八人

一九 法庫縣電燈廠

本廠は昭和二年五月の創業にして、始め故楊宇霆氏一族に依り股份有限公司の設立を企畫し一般の應募を期待せしも引受意の如く進まず結局故楊宇霆氏の大半出資に歸せり。建物、發電機、汽罐等新式なれども運用宜しきを得ざる爲能率低下せり。三百五十KW交流發電機及其他の機器は殆んど總て奉天の英商安利洋行より購入せるものにして此の價格現大洋約三十萬元なりと聞く。而して股份有限公司に名を藉るも殆んど個人事業に均しく創立以來一回の株式總會も開かず決算報告もなき爲明確なる收支は不明なれども年々著しく缺損を續けつゝあり之が救済方を奉天省公署實業廳を通じて奉天電燈廠に申込み、依つて同廠は實狀調査を行はしめたる結果資金を貸與して高利負債を整理せしむると同時に協議の結果奉天電燈廠の委任經營となすに決し昭和九年三月より之が經營の衝に當れり、同地方は比較的將來發展性乏しきとこ

ろなれども委任經營後業績好轉し收支償ふに至れり。

一、資 本 金(八・四)

拂込資本金

國 幣

二一八、四〇〇元

興 業 費

同

三五〇、〇〇〇元

二、發 電 所 設 備(八・四)

發 電 機

製作者メトロポリタン

種類三相交流

電壓二、三〇〇V

周波數六〇

廻轉數三六〇

回 容 量 三 五 〇 K W

臺數一基

汽 罐

製作者B&W

汽壓一五〇封度

加熱面積一七八〇平方呎

臺數一基

汽 機

製作者プロヘットリンデー

種數豎型復式

馬力數四五〇馬力

廻轉數三六〇回

臺數一基

三、内外線設備(八・四)

電 壓

二三〇〇V

低壓電燈一〇V

電力二二V〇

電 氣 方 式

三相三線式

電 柱 本 數

三八五本

變 壓 器

三九臺 總容量三二一KVA

四、需 要 狀 況(八・四)

電 燈 數

五〇二戶

九二一燈

各 説

各 說

從 量 燈 一五五戶

三〇七四燈

街 燈

計 六五七戶

三三九燈

五、從 事 員 (八・四)

四、三三四燈

代表者 楊春元

一七〇馬力

其 他 三七人

### 二〇 農安電業股份有限公司

昭和二年土地の有力者趙錫點、宋景福兩氏により農安電燈廠設立せられたりしが昭和四年董仲洙氏主となり之を哈洋七萬元にて買收し翌五年三萬元を増資し資本金哈洋拾萬元の株式組織にて經營しつゝありしも從來より盜電多く業績振はざる折柄今次の滿洲事變にて經營頓に惡化し加へて昭和七年三月發電所の原動機破損し一時供給を中止し其後辛じて經營を持續しつゝありしも最近再び休止し今日に至る其後滿電に對し救済を求むるところありたれば滿電に於てこれが委託經營をなし九年七月十七日日滿合辦農安電業股份有限公司の設立契約をなし發電機の修理に着手し十一月官廳手續を了し十二月二十六日點燈せり。

一、資 本 金 (八・九)

公稱資本金 哈大洋 一〇〇,〇〇〇元  
 興業費 同 一,二〇〇,〇〇元

二、發電所設備 (八・九)

發電機

製作者 S.S. 種類交流 電壓五、二五〇V 周波數六〇 迴轉數九〇〇回 容量六二KW 臺數一

汽 機

製作者 ヴルフ 種類ロコモビル 汽壓一二瓩 容量一三五馬力 臺數一基

三、内外線設備 (八・九)

電 壓 高壓五、二五〇V 低壓二二〇V

電 氣 方 式 交流三線式

電 柱 數 二四〇本

變 壓 器 五臺 五〇KVA

四、需要狀況 (八・九)

電 燈 數

定 額 燈 四三戶 一、二〇〇燈

從 量 燈 七五戶 一、二〇〇燈

街 燈 一一八戶 二〇〇燈

計 二六〇〇燈

五、從 事 員 (九・十二)

代表者 西正之 外十四名

### 二一 滿洲里市電燈廠

各 說

本廠は明治三十九年の創設に係り日本側を除きたる滿洲電氣事業の嚆矢たり。現に滿洲里の經營にて獨立會計に依り市内に電燈約五千燈竝電力若干を供給する外電氣器具販賣を營みつゝあるも相當缺損を示しつゝあり。市自治會としては巨額の負債を有するため數年前市會に於て之が事業を賣却し償還に充つるに如かずとの意見出で支那人側亦之に策動せしも事成らずして終れり。昭和七年六月人を介し我が社に援助を求むるところありたるを以て我が社に於て調査せしが、偶々蘇炳文の叛亂あり交渉頓挫せり。最近先方より再應交渉ありたるを以て昭和八年二月再調査の結果援助することに決し、資本金國幣十四萬圓全額拂込の滿洲里電業股份有限公司を設立することに昨年七月市との間に協商成立せり。尙公司設立迄の過渡的辦法として發電所改修費を貸與し、其の條件として我社より社員を派遣し業務の監督指導に當らしめつゝあり。

一、資 本 金 (九・二二)

興 業 費 國 幣 一六五、〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備 (九・二二)

發 電 機 (第一號)

製作者アリスチャルマー 種類直流分捲 電壓二二〇V 迴轉數六〇〇回 容量一〇〇KW 臺數二基

汽 機

製作者ウルフ 種類ロコモビル 馬力數二〇〇馬力 迴轉數一八七回 臺數一基

發 電 機 (第二號)

製作者S.S. 種類直流分捲 電壓二二〇V 迴轉數一、二五〇回 容量一七六KW 臺數二基

汽 機

製作者ウルフ 種類ロコモビル 馬力數四五馬力 迴轉數二二五回 臺數一基

發 電 機 (第三號)

製作者ペーシ 種類直流分捲三線式電壓四四〇 容量一〇二KW 臺數一基

汽 機

製作者ウオルフ 種類ロコモビル 汽壓一二 加熱面積二、五〇〇平方尺 馬力一八〇 臺數一基

三、内 外 線 設 備 (九・二二)

電 壓 二二〇V及四四〇V

四、需 要 狀 況 (九・二二)

定 額 燒 燈	六五六戶	一、〇一九燈
從 量 燈	五八八戶	五、一九四燈
計	一一四四戶	六、二一三燈
電 力 容 量	一〇戶	九二馬力

五、從 事 員 (九・二二)

廠長 孟憲惠 顧問 鈴木嘉男 他三十七名

三三 下 九 臺 電 燈 廠

土地の人杜瑞霖氏等相謀り、合資組織り依り光大電燈公司を設立し、大正十五年一月營業を開

始せり。資本金國幣五萬元にして主として杜氏の出資に係る。現に五十四KW並百五十五KW直  
 流發電機各一基を設備す。昭和五年春滿電は當公司より運轉資金の融通を求められしことある  
 も、慎重調査の結查投資確保の見込なきものとして之が要求を斥けたりしが滿洲事變後再び融  
 通方交渉ありたるを以て調査せしも未だ彼我の商量成立せざるまゝ今日に至る。

最近再び我社に救済を求むるところあり社員を派遣再調査し九年十月一日資本金十萬圓我  
 社出資六萬圓の合辦公司設立契約及委託經營契約を締結なし十年一月九日下九臺送電線竣工  
 なし吉林より送電をなせり。

三、内外線設備 (九・二)

電 壓 電燈用二二〇V 電力用四四〇V

電氣方式 直流三線式

電柱本數 一九一本

四、需要状況 (九・二)

電燈數	三四月	七六二燈
定額燈	一三二月	一、二七七燈
從量燈		一八四燈
計	四四六戸	二、二二三燈
電力容量	二月	一六・五馬力

五、從 事 員 (九・二)

經理 杜瑞霖

其 他 二三人

二三 依蘭電業股份有限公司

當地に於ける電氣事業は昭和七年哈爾濱埠頭區新城大街大信號に於て設立を計畫せしが水  
 害に依り施工頓挫せり。其後昭和八年九月北滿電氣株式會社と現地軍部地方官民との間に日滿  
 合辦公司設立の議纏り、同年十月十七日哈爾濱より諸機械を現地に發送の上工事に着手し、十二  
 月五日据付を完了し營業を開始せり。

依蘭は人口三萬餘にして内日本人四百餘人なれ共夏期に多く冬期商人の引上ぐるもの多く  
 城内殆ど商人と役人にして商業地區たる觀あれど工業方面も漸次見る可きものあり中には自  
 家用發電機五KWを有する製粉工場あり將來の需要膨脹に期す可きものありと思わる。

營業開始以來電燈料金徴收狀況等も九五%を示し九年十一月の決算に於て八、〇〇〇餘圓の  
 純益を上げ營業狀態極めて良好なり。

一、資 本 金 北電出資六五、〇〇〇 一般出資二五、〇〇〇

二、公稱資本金 國幣九〇、〇〇〇圓 (金額拂込—滿人未拂二、五〇〇圓)

興業費 同 五六、五四九圓

内譯發電所關係 同 四二、〇〇〇圓

各 説

各 説

一九〇

電線路 同 一二六八七圓  
計器工具 同 一八六二圓

二、發電所設備

發電機

製作者ラフアンホーベリ社種類三相交流 電壓三、五〇〇

容量七五KVA 廻轉數七五〇 周波數五〇 臺數一

勵磁機 (發電機直結)

電壓七〇V 電流二五A

汽 罐

製作者不明 種類ロコモビル汽壓一二四疋平方 火床面積一、二〇平方

汽 機

製作者不明 種類容量馬力八五 廻轉數每分二一〇 汽壓一二疋平方

三、内外線設備

電氣方式

三相交流三線式 電壓配電三、五〇〇V 周波數五〇

供給電壓

電燈 一〇〇—一一〇V 单相  
動力 二〇〇—二二〇V 三相

電柱本數

二三六本

四、需要狀況 (九十一月現在)

五、從事員計十七名

定 額

燈 三三七件

七八六燈

從 量 燈

二一五件

二、四、五九燈

計

三、二、四、五燈

二四 山海關電燈股份有限公司

二五 秦榆電燈股份有限公司

當公司は所在地支那側に付本文を略す。

第四節 自家用兼供給事業

一 撫順……滿鐵礦撫順炭發電所

撫順に於ける電氣事業は始め炭礦所要動力に供するため自家用として開始されたるものにして粗悪炭を最も有利に處分し炭礦作業に低廉な動力を供給せんとし、大正三年十二月モンド式瓦斯發生裝置爐數一〇基を附屬する三、〇〇〇KW(一、五〇〇KW發電氣二臺)火力發電所を新設せられたるものなり。其後出炭増加と所要電力の需要増加によりモンド式爐二十二基、リム式爐十四基合計三十六基の瓦斯發生裝置並にターボゼネレーター五臺一、二、〇〇〇KW(一、五〇〇KW二臺、三、〇〇〇KW三臺)を設置したり。

その後大正十一年七月大官屯に火力發電工場を設備し、二〇、〇〇〇KW出力擴張計畫に基き第一期工事として一、二、五〇〇KW及五、〇〇〇KWカーチス式發電機二臺を据付けたりしが更

各 説

一九一



に昭和三年三菱製チエリタービン一、五〇〇KW一臺を据付け、電燈は炭礦用及び社用、住宅用に供するの外社外にも之を及ぼし、電力は炭礦作業各般の動力用とするを主とし、社外は我社との契約に基き大正十一年撫奉送電線開通以來奉天遼陽鐵嶺開原等に送電す。

昭和二年十一月職制變更に依り従來の撫順炭礦工業課を廢して撫順炭礦發電所とし、モンド瓦斯發電工場係と大官屯發電工場係の二となしたり。現在の設備容量は豫備を含めて九二、〇〇〇KWなり。而して本年末送電用として、五〇サイクル四〇、〇〇〇KW新發電所建設の豫定なり。

一、資 本 金

興 業 費 七〇六、二〇〇圓

二、發 電 所 設 備 (九・三)

イ、モンド瓦斯發電工場 (豫備發電所)

發 電 機

製作者A.E.G. 種類三相交流 電壓二、二〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回 容量一、五〇〇KW 臺數二基

製作者G.E. 種類三相交流 電壓二、二〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、〇〇六回 容量三、〇〇〇KW 臺數三基

汽 機

製作者B & W 汽壓一四・一 加熱面積三七四平方米 臺數八基

製作者B & W 汽壓一四・二 加熱面積七七〇平方米 臺數一〇基

汽 機

製作者A.E.G. 種類カーチスタービン 廻轉數三、六〇〇回 容量一、五〇〇KW 臺數二基

製作者G.E. 種類カーチスタービン 廻轉數三、六〇〇回 容量三、〇〇〇KW 臺數三基

ロ、大官屯第一發電所

發 電 機

製作者G.E. 種類三相交流 電壓一、〇〇〇V 周波數六〇 廻轉數一、八〇〇回 容量一、二、五〇〇KW 臺數一基

製作者S.S. 種類三相交流 電壓一、〇〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回 容量一、二、五〇〇KW 臺數一基

製作者G.E. 種類三相交流 電壓一、〇〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回 容量五、〇〇〇KW 臺數一基

製作者B & W 汽壓一二・七 加熱面積四〇六平方米 臺數六基

製作者ガルベ 汽壓一二・七 加熱面積三九二平方米 臺數二基

汽 機

製作者G.E. 種類カーチスタービン 廻轉數一、八〇〇回 容量一、六、四〇〇KW 臺數一基

製作者三菱 種類ツエリタービン 廻轉數三、六〇〇回 容量一、二、五〇〇E W 臺數一基

製作者G.E. 種類カーチスタービン 廻轉數三、六〇〇回 容量五、〇〇〇KW 臺數一基

ハ、大官屯第二發電所

發 電 機

製作者G.E. 種類三相交流 電壓一、〇〇〇V 周波數六〇 廻轉數三、六〇〇回 容量五、〇〇〇KW 臺數一基

製作者三菱 種類ツエリタービン 廻轉數三、六〇〇回 容量一、二、五〇〇E W 臺數一基

製作者G.E. 種類カーチスタービン 廻轉數一、八〇〇回 容量一、六、四〇〇KW 臺數一基

各 説

一九四

製作者三菱 種類三相交流 電壓一、〇〇〇 周波數六〇 廻轉數一、八〇〇回 容量二五、〇〇〇 KW 臺數二基

汽

製作者B & W 汽壓二九疋 加熱面積一四七〇平方米 臺數三基

汽

三、送電線設備(九・三)

四四、〇〇〇V系 亘長 六九八呎  
一一、〇〇〇V系 亘長 六四七五呎  
支持物鐵塔四八基 鐵柱一五本、木柱一、七四二本

四、内外線設備(九・三)

電 壓 高壓二、二〇〇V 低壓一〇〇V  
電 氣 方 式 三相交流

線 路 亘 長 五五九三・一呎(坑内一三・九呎は含まず)

電 柱 本 數 一、四八〇本

變 壓 器 九二九臺 四八、一三一 KVA (坑内三二五臺 七八六九 KVA は含まず)

五、需要状況(九・三)

電 燈 數(坑内を含まず)

定 額 燈 五二七二戸 三一、九二九燈

從 量 燈 三三五四戸 三一、六四九燈

街 燈 四、三七六燈

其 他

計 八六二六戸 一三、九九九燈

電 力 容 量 六九三三三瓩

一 般 一、二八戸 六、四九八・一 KW

特 別 一、七戸 一、九四二 KW

電 熱 容 量 一、九四二 KW

六、従事員(九・三)

代 表 者 林博太郎

炭 礦 長 久保孚

主任技術者 岡雄一郎

其 他 事務員 二人

技術員 一九人

備 員 三九一人

計 四一二人

二 本溪湖...本溪湖煤鐵有限公司

當公司發電所の起源は明治四十一年九月本溪湖大倉炭坑會社の自家用として七・五 KW 發電機を据付け社内に點燈せしに始まりしものにして四十二年十月別に電氣公司を設立し A.E.G 製七・五 KW 發電機を新設して一般供給にも應じたり。

各 説

一九五

然るに四十三年五月前記大倉炭坑會社との間に清國政府との合辦會社本溪湖煤礦公司(資本金大洋銀貳百萬元設立されるに及び該公司は電氣公司を合併し翌四十四年六月製鐵事業を經營すると共に大洋銀四百萬元に増資し名稱を本溪湖煤鐵有限公司と改めたり。

大正三年製鐵事業關係諸設備の建設に際し既設採炭關係諸設備を電化し且前記製鐵作業諸設備に使用する電力を供給する目的を以て別に發電所を新設し之にA.E.G製一五〇〇KW發電機二基を据付け大正四年四月より送電を開始すると同時に其餘力を以て市街一般需用者にも供給し既設七五K發電所を閉鎖せり爾來當公司作業の進展に伴ひ大正六年十月G.E製二五〇〇KW一基大正十四年十二月A.E.G製三〇〇〇KW一基更に昭和八年十二月神戸三菱造船所製三〇〇〇KW二基を増設して今日に及びり。

一、資 本 金 (九・四)

興 業 費 金 一、七五七、六一二圓

二、發 電 所 設 備 (九・四)

發 電 機

製作者A.E.G. 種類三相交流回轉界磁型 電壓二二〇〇V 廻轉數三、六〇〇回 周波數六〇 容量一、五〇〇KW 臺數二基  
 製作者A.E.G. 種類三相交流回轉界磁型 電壓二二〇〇V 廻轉數三、六〇〇回 周波數六〇 容量三〇〇KW 臺數一基  
 製作者G.E. 種類三相交流回轉界磁型 電壓二二〇〇V 廻轉數三、六〇〇回 周波數六〇 容量

二、五〇〇KW 臺數一基

製作者神戸三菱電機 種類三相交流回轉界磁型 電壓二二〇〇V 廻轉數三、六〇〇回 周波數六〇 容量三〇〇KW 臺數二基

汽 罐

製作者獨ホスゲン 種類水管式 汽壓一二三 加熱面積三九九平方米 臺數三基  
 製作者B&W 種類水管式 汽壓一二三 加熱面積四〇八平方米 臺數四基  
 製作者日本汽車製造 種類タクマ水管式 汽壓一二三 加熱面積三六八平方米 臺數一基

汽 機

製作者A.E.C. 種類カーチススチムタービン 馬力數二、〇〇〇馬力 臺數二基  
 製作者A.E.C. 種類カーチススチムタービン 馬力數四〇〇馬力 臺數一基  
 製作者C.E. 種類カーチススチムタービン 馬力數三三五〇馬力 臺數一基  
 製作者福戸三菱造船所 種類ユングストロームスチムタービン 馬力數九、〇〇〇馬力 臺數一基

三、送 電 線 設 備 (九・四)

區 間 本溪湖廟兒溝鐵山間(橋頭及南坎經由)

互 長 三〇・八五軒

回 線 數 一

電 氣 方 式 交流三相三線式 六〇サイクル

最 大 電 壓 二二、〇〇〇V

電 柱 本 數 鐵塔二 木柱六五二

各 説

各 説

一九八

四、内外線設備(九・四)

電 壓	高壓二二〇〇V	低壓電燈一〇〇V	電力二二〇V
電 氣 方 式	單相二線式及三相三線式		
線 路 亘 長	五一〇四杆		
電 柱 本 數	二、二七〇本		
變 壓 器	一五八箇		

五、需要狀況(九・四)

電 燈 數	定 額 燈	二、八九九戸	一、二八〇八燈
	從 量 燈	六八一戸	五、六五〇燈
	計	三、五八〇戸	一、八四五八燈

電力容量

一 般	二七戸	三五二馬力
特 別	一戸	一七八馬力
計	二八戸	五三〇馬力
電 熱 容 量	三四戸	四九七五KW

六、從事員(九・四)

代 表 者	鮫島宗平	主任技術者	小島喜久馬
其 他	職員	一三人	備員
	計	一七二人	三四人
			二一九〇

第五節 其の他の供給電気事業

一、奉 天 省

1 蓋平……蓋平電業股份有限公司

本公司は大正十二年二月資本金奉小洋拾萬元を以て設立せられたるも、多額の税金を賦課され收支相償はざりしに依り昭和四年一月資本金を現大洋五萬元に變更せり開設に先立ち日本側に於て附屬地内に發電所を建設するか、若くは日支の合辦事業として經營すべしとの説唱へられしも、結局支那側に於て自主的に株式を募集し六十KW交流發電機一基を設備して、電燈約二千五百燈の需要に應ずることとなり、昭和二年五月經營難打開の一策として、公司理事孟廣楷氏は附屬地に對する送電を條件として我が社に資金の融通を交渉したることあり、之に對し我が社に於て調査の結果公司には約八KWの餘剩電力あるを以て、現在設備に依り附屬地の需要は之を充し得べしと雖も事故の頻發並城内方面の需要増加を考慮するときは是非とも公司又は我が社に於て豫備機を用意する必要あり、現在の公司に之を用意する資力無きとせば勢ひ我が社に於て之を負擔することとなり、斯くては到底採算し得べきものに非ずと觀遂に其の要望を斥けたり、然るに近來日滿提携の機運熾なると共に先方より進んで大石橋電燈株式會社に對し日滿合辦方を申し出でたるに依り調査の結果先方の求めに應ずることとなり、公司設立準備

各 説

一九九

備中なりしも公司設立の許可は尙相當日子を要すべきを以て差當り借款形式に依り國幣五萬元を貸與し汽罐の増設内部の改善をなし、昭和七年八月十九日より滿鐵附屬地へ送電せしむることとせり。

其後幾何もなくして需要増加の爲大石橋電燈會社より受電することとし昭和八年六月之が契約を締結同年十二月より發電所を閉鎖し受電を開始せり。尙之れより前申請中なりし公司設立に關し十一月八日實業廳の認可ありたり。

一、資 本 金 (九・九)

公稱資本金	國幣	七〇〇〇圓
拂込資本金	同	七〇〇〇圓
興業費	同	七五四・八圓

二、發電所設備 (八・五)

發電機	製作者 G.E. 種類 三相交流	電壓 二、三〇〇 V	周波數 六〇	廻轉數 一、二〇〇 回	容量 六〇 K W
汽 罐	製作者 米エーメス及 B & W	種類 橫置火管式	汽壓 九五封度及一五〇封度	加熱面積 九八八平方呎	臺數 二基
汽 機	製作者 米エーメス	種類 橫型單筒	馬力數 一〇〇 馬力	廻轉數 一、二〇〇 回	臺數 一基

受電容量 一〇〇 K V A (五〇サイクル)

三、内外線設備 (七・六)

電 壓	電壓 二、三〇〇 V	低壓電燈用 一〇〇 V
電 氣 方 式	三相三線式及單相二線式	
電 柱 本 數	四五九	
變 壓 器	臺數 二四臺	總容量 八〇五 K V A

四、需要狀況 (九・一〇)

電 燈 數	二八五戶	五六三燈
定 額	一九九戶	一七九五燈
從 量	四八四戶	四二二燈
計 量	五戶	二七八〇燈
電 力 容 量		三四五 K W

五、從 事 員 (九・一〇)

總經理	候顯謨	專務董事	愛甲直剛
其 他	一四人		

2 海城……海城電氣有限公司

大正十三年三月郭松齡は個人的事業として當地に裕民電燈廠を創設せしが翌十四年十二月同氏没落と同時に張作霖氏の所有に歸し、海城電燈廠と改稱同縣縣知事代りて之を經營することとなれり。然るに昭和三年九月に至り、海城商務會は同廠設備一切を現大洋八萬元にて買收の

上資本金現大洋十一萬元の海城電氣有限公司を設立し、百二十五KW交流發電機を設備せしが満洲事變後小規模發電所孤立の不利を悟り、人を介し我社に受電方申込あり。仍つて昭和七年一月二十一日より發電所を閉鎖し最大電力二百KVAを限度とし受電を開始せり。昭和九年八月發電設備一式満電に賣却せり。

一、資 本 金 (九・一)

公稱資本金 國幣 一〇〇〇〇圓  
 拂込資本金 同 一〇五、九〇〇圓  
 興業費 同 一〇八、一三圓

二、内外線設備 (九・二)

電 壓 高壓三三〇〇V 低壓電燈一〇〇V 電力二〇〇V  
 電氣方式 三相三線式  
 電柱本數 三三三本  
 變壓器 臺數四七臺 總容量三三五KVA

三、需 要 狀 況 (九・二)

電 燈 數	三三〇戶	七一〇燈
定 額 燈	一九一戶	六六八五燈
從 量 燈		六二〇燈
計	五二一戶	八、〇一五燈

四、從 事 員 (九・一) 一四戶 一六臺 一四六五馬力

總經理 幸徳潤 技師長代理 副理 黎鐵生 其他八人

3 四平街……四平街市電燈股份有限公司

本公司は梨樹縣知事の懇願に依り用樹松氏計畫の下に大正十二年十二月創設せられたるものにして、資本金奉小洋十二萬元は梨樹縣地方捐收發所長より之を立替へたり。後奉小洋十五萬元に増資し、梨樹縣及一般商戸各々折半負擔せり。容量百KWの發電機一基を設備し一切の設備は哈爾濱シームンスの請負に成る梨樹迄送電線路を建設し電燈約八百燈受電變壓器容量五十KVAを供給す。

満洲事變後は電氣供給の萬全を期すべく發電所を閉鎖し四平街電燈株式會社現在大同電氣株式會社より受電するに至れり。

一、資 本 金 (八・一)

公稱資本金 國幣 一五〇、〇〇〇元  
 拂込資本金 同 八七、六五〇元  
 興業費 同 一二、四一八八元

二、發 電 所 設 備 (八・二)

發 電 機  
 各 説

各 説

二〇四

製作者 S.S. 種類 三相交流 電壓 三二五〇 V 周波數 五〇 廻轉數 七五〇 回 容量 一〇〇 KW  
臺數 一基

汽 機

製作者 ウルフ 種類 ロコモビル 汽壓 一七〇 封度 加熱面積 一八六〇 平方呎 臺數 一基

汽 機

製作者 ウルフ 種類 ロコモビル 二汽筒 馬力數 一四五馬力 廻轉數 二一〇 回 臺數 一基

受電容量 一五〇 KVA (五〇 サイクル)

三、内外線設備 (八・二二)

電 壓 特高一〇〇〇〇 V (送電) 高壓 三三〇〇 V 低壓 二二〇 V

電氣方式 三相三線式

電柱本數 三三〇 本

變壓器 臺數 一八臺 總容量 一八六 KVA

四、需要狀況 (八・二二)

電燈數

定額燈 一六三四 燈

從量燈 一三六七 燈

街燈 三三八 燈

計 三三三九 燈

電力容量 六戸 三〇馬力

五、從事員 (九・三)

經理 畢寶華 技師長 羅柏年

其 他 二三人

(備考 梨分廠を含む)

4 西安……西安縣電氣股份有限公司

大正七年元西安保衛團長魏斌凱氏は電氣公司設立の認可を得たるを以て同年十一月鐵嶺電燈局との間に電燈建設資金拾七萬五千圓の借款假契約を締結せり。茲に於て諸機器を北鎮より廻送し殆んど建設に着手せむとせるとき西安縣知事より外人を株主とせる疑ありとて取調を受け且つ魏氏も保衛團長時代に於て收賄の嫌疑ありとて收監せられたるを以て施工は一時中止の止むなきに至れり。九年一月魏氏は放免せられたるも此の間公司設立の再認可に就き同氏の知人元參議院議員趙玉雙氏發起人代表となり運動に努めたる結果同年十二月張巡閱使の認可を得たるを以て魏氏並鐵嶺電燈局は更めて十年八月公司設立資金拾參萬五千圓の借款契約を締結せり依つて直ちに工事に著手し十一年二月四十八 KW 發電機(點燈數)に對する設備の完成と同時に營業を開始せり。

始め本公司は相當の収益を擧げ將來に期待を懸けられたるも運用上の缺陷並魏氏の個人的事業の失敗等に因り經營は抜きさしならざる破目に陥りたるを以て鐵嶺電燈局の債權を繼承せる滿電は昭和二年五月公司に對する金拾參萬五千圓の債權を金參萬圓に迄好意的に切下げたり。

各 説

二〇五

昭和四年十一月同公司は前記建設借款金參萬圓の支拂期日到来を機として増資を决行し舊資産を貳萬四千元と算定すると共に新たに參萬六千元を追加して六萬元の株式會社とし南京政府に對し之が允許方を稟請翌五年一月には料金を大洋建に變更し同九月には舊債整理を交換條件として鐵嶺電燈局に設備する百六十KW發電機一式を特に減價して滿電より譲受くる等銳意公司の整理に努めたり茲に於て公司の營業も全く面目を一新するところあり業績亦好轉を示したれども一方負債は尙逐年増加せるを以て役員に於て融通或は保證借入する等彌縫策を講じつゝありしも技術運用上の缺陷經營方法の幼稚等に因り經營漸く困窮を告げ爲に滿電に對し之が救済を乞ふに至れり而して當地西安炭礦に於て事業買収を企圖するところありしも商量の結果奉天電燈廠に之が經營を委任することとし昭和八年十二月一日より奉天電燈廠に於て委任經營開始し業績著しく好轉するを得昭和九年十一月西安炭收を中心發電所とする東方電業股份有限公司成立するに及び同公司の委任經營下に屬し今日に及べり然して官廳の認可あり次第本事業は東方電業公司に買収合併さるゝものなり。

一、資 本 金 (八・一一)

拂込資本金 國 幣 一、一八〇、〇〇〇圓  
興 業 費 同 一、一八〇、〇〇〇圓

二、發電所設備 (八・一二)

發 電 機

製作者 B T H 種類 三相交流 電壓 三、三〇〇 V 周波數 五〇 廻轉數 三、七五回 容量 一、六〇 K W  
臺數 一基

製作者 メッシュェル 種類 三相交流 電壓 三、三〇〇 V 周波數 五〇 廻轉數 六〇〇回 容量 四、八 K W  
臺數 一基

汽 罐

製作者 B & W 汽壓 一、五〇封度 加熱面積 二、五〇〇平方呎 臺數 一基  
製作者 タクマ 汽壓 一、三〇封度 加熱面積 七〇〇平方呎 臺數 二基

汽 機

製作者 ベリス 種類 堅型複式 廻轉數 三、七五回 馬力數 二、七五馬力 臺數 一基  
製作者 ベリス 種類 堅型複式 廻轉數 六〇〇回 馬力數 九、五馬力 臺數 一基

三、内外線設備 (八・一三)

電 壓 高壓 三、三〇〇 V 低壓 電燈 一、一〇 V 電力 二、二〇 V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 數 二、六五本

變 壓 器 二、二臺 總容量 一、七五 K V A

四、需要狀況 (八・一四)

電 燈 數 定 額 燈 六、八二戶 一、五一一五燈

從 量 燈 一、二四戶 一、九七五燈

街 燈 二、二〇燈

各 説



炭 礦 電 燈

七五七燈

八〇六戶

四四六七燈

電 力 容 量

六〇馬力

五、從 事 員 (八・二)

代表者 李忠英 主任技術者 石川一清

其 他 二九人

5 山城鎮……山城鎮東興電氣股份有限公司

當地の電氣事業は始め金州の人韓雲階氏に依り計畫せられたるものにして、大正七年六月裕華電氣公司の設立許可を受くると同時に韓氏は鐵嶺電燈局に對し之が建設資金の融通方を懇請し同年十月其の希望を容れ借款契約を締結し、資金は滿鐵保證の下に金拾貳萬五千圓を鮮銀より借入れ工事に著手せるが種々の事情に依り四十八KW發電機並百馬力汽罐の据附工事も捗らざりしが大正八年十月漸く一先づ完成送電することを得たり然るに送電後二旬を出でずして機器の燒損に逢ひ休業し幾許ならずして復舊したるも翌九年三月に至り再び故障を起して停電するの止むなきに至れり。

此の間建設資金拾貳萬五千圓は消散し盡して地場より高利の融資を求むるに至り、營業收益を擧ぐる遑もなく業績亦不振を續けたり。

同年七月、機器の補修完成して送電を再開せざるも、猶事業更生の實擧らざりしを以て鐵嶺電

燈局は十一月派遣員を交替して業務整理を急がしめ、先づ高利借款返済資金として金貳萬參千圓を融通すると共に舊借款及汽罐増設資金並其の他融通金全部を一括し改めて金拾八萬五千圓の借款假契約を締結せり。

斯くして公司の業績は一時小康を保ち得たれども、奉直戰後の財界不況に禍さるゝに及んで鐵嶺電燈局としても遂に策の施すところなく、之を放擲することに決し、十三年四月よりは全く休業状態に陥りたり。

其の後當時の經理王昌年氏は韓總理より同事業一切を譲受け昭和二年山城鎮電燈廠(資本金拾貳萬圓)の名に依り營業を開始し、銳意公司立直策に努むるところあり、電燈約二千五百燈(需要家數約三百四)を供給したれども事故續出し辛うじて營業を持續する状態なりき。

越えて昭和五年八月當公司の副經理王庚年氏(王總理の弟)は滿電に對し公司財政の窮情を訴へて之が設備改修資金の融通を求むるところあり、之に對し滿電としては從來の行懸りもあり同業助成の實を擧げたくも當時に於ては資金融通に就き支那側官憲の諒解を得る見込たゞずして一先づ其の要請を拒みたり。

次で十月王總理來社し公司設備機器廢朽を機會に同事業を閉止したき希望を陳べて、滿電に對し之が諒解を求めんとせり、然るに王總理來社の眞意は西安電氣公司同様滿電より發電機器を譲受けたきものゝ如く見受けられたるを以て、滿電は鐵嶺電燈局に設備する發電機器一式を

賣却しても差支なき旨を仄したれば彼亦大いに賛同し直ちに機器賣買の交渉に移りたり。然るに満電としては会社に對し現に拾八萬五千圓の貸金を有する關係上、之を不問に附して別途に機器取引をなし得ざる事情ありたるに依り、舊債の整理方を要求せしが先方には内部的に特殊の事情もありたるを以て満電としては舊債整理の問題は追て別に協議の上整理方法を講ぜしむることとし、一方機器の賣買は金壹萬圓と協定して契約を締結し、其の代金支拂方法は機器撤廢工事までに金六千貳百五拾圓を前納し、殘額は爾後毎年償還せしむることとし、尙機器代金を完済するに至るまで當該機器全部を擔保に提供せしめたり。

然るに同年十一月に至り于芷山氏の懇懇に基き、新たに東興電氣股份有限公司設立せられ山城鎮電燈廠を現大洋貳萬元にて譲受くと共に、別に現大洋參萬元を追加して資本金現大洋五萬元の株式組織とし、奉天省實業廳に之が登記の申請をなしたり。茲に於て満電は王總理との機器賣買契約を更改して更に同公司總理邵貴氏と従前同様の契約を締結せり。

昭和九年十一月東方電業公司の設立さるゝと同時に同公司の委任經營するところとなり今日に至る尙官廳の認可あり次第新公司に買收合辦さるゝ豫定なり。

一、資 本 金 (八・四)

拂込資本金 國 幣 五〇、〇〇〇元  
興 業 費 同 八五、七〇〇元

二、發電所設備 (八・四)

發 電 機

製作者 B.T.H. 種類 三相交流 電壓 三、三〇〇 V 周波數 五〇 廻轉數 三、七五回 容量 一、六〇 K W  
臺數 一基

汽 機

製作者 B & W 汽壓 一五〇 封度 加熱面積 二、六八〇 平方呎 臺數 一基

汽 機

製作者 ベリス 種類 堅型複式 廻轉數 三、七五回 馬力數 二、七五馬力 臺數 一基

三、内外線設備 (八・四)

電 壓 高壓 三、三〇〇 V 低壓電燈 一一〇 V 電力 二二〇 V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 本 數 一九五本

變 壓 器 二二臺 總容量 一一二 K V A

四、需 要 狀 況 (八・四)

電 燈 數

定 額 燈 七五〇戶 二、四一六燈

從 量 燈 四〇戶 一、一〇〇燈

街 燈 一五〇燈

計 七九〇戶 三、六六六燈

五、從 事 員 (八・四)

代表者 陳宣春商務會長

各 説

各 説

其 他 二九人

## 二、吉林省

### 1 樺甸……耀輝電燈公司

當地は始め製粉工場鼎和泉が自家用電力の餘剰を以て一般市中電燈約百燈に供給したるものなりしが後樺甸縣商務會長陳景洲氏及其の他の有力者相謀り資金を嚮出して哈爾濱よりロコモビル及發電機を購入せり。工事施行は露人技師之に當り昭和五年五月竣工、營業を開始せるが設備の不完全に加へて經營亦宜しきを得ず毎年缺損の状態にあり、

我社に於ては當公司の接渉に應じ之が買收後東方電業樺甸營業所となす豫定なるも未だ具體的計畫に到らず今日に及べり。

#### 一、資 本 金 (八・九)

公稱資本金 國 幣 一〇〇,〇〇〇元

#### 二、發 電 所 設 備 (八・九)

發 電 機

種類直流 電壓二二〇V 容量七〇KW 臺數一基

原 動 機

種類蒸氣機關 容量一〇〇馬力 臺數一基

#### 三、需 要 狀 況 (八・六)

電 燈 數 一、二三八燈

#### 四、從 事 員 (八・九)

經理 陳景洲 技術員 カンブアルコ(波)

### 2 磐石……磐石縣電業股份有限公司

當公司は昭和九年五月當地官民が土地發展保安及警備を目して企業せるものにして許可指令を同年十一月九日下附されたり、同地は東方電業公司の區域内にありて將來同公司によりて買收又は受電なすべき意嚮なり。

#### 一、資 本 金

公稱資本金 國 幣 一〇〇,〇〇〇圓(四千株)

拂込資本金 同 五〇,〇〇〇圓

#### 二、發 電 所 設 備

發 電 機

不明周波數五〇 電壓二、二〇〇V

汽 機

種類吸入瓦斯發動機 馬力數一〇〇馬力

#### 三、内 外 線 設 備

電 壓

配電電壓 高壓二、二〇〇V 低壓二二〇V 一一〇V

電 氣 方 式

供給電壓 高壓二、〇〇〇V 低壓二〇〇V 一〇〇V

#### 四、需 要 狀 況

高壓三相三線式 低壓三相三線式單相二線式電線路の種類 架空電線路

電 燈 敷 二五〇〇燈

五、從 事 員

代表者 張兆豐 主任技術者天野林作

3 密門……密門電燈廠

大正七年十二月英國人ジョンズ氏は東支鐵道長官より當地電燈事業經營の權利(營業許可期限五ヶ年)を獲得し、露國人トイカチヨフ氏を營業支配人として鐵道附屬地並支那市街に電燈を供給せり。始め二十KW直流發電機一基を設備せしも、運轉開始後間もなく破損せるを以て、新たに三十二KW直流發電機を設備し、之に依り電燈約一千三百燈を供給して一箇月平均二千留程度の純益を擧ぐることを得たるも、偶々露貨の暴落に際會し業績著しく不振を極むるに至りたり。

此の時に方り、鐵嶺電燈局は夙に同事業の買收計畫を樹て、滿鐵會社より之れが資金五萬圓(利息年八)の融通を受くる諒解を得て之が交渉を纏め八年五月より營業を繼承することとし、日英兩國領事館の登記を了せり。(因みに買收當時の同事業財産總額は貳拾五萬八千九百四拾留にして日本貨五萬圓中に仲介料を含み居れり)

然るに繼承後一週日を出でずして、煙突倒壊し六月十四日再築竣工して再び送電を開始することを得たるが其の後も故障百出し需要家側に非難の聲高く燈敷は漸減の勢を示したり。偶々九年十一月強風の爲再築の煙突三斷して全く使用に耐え得ざるに至りたるを以て之を機會に

日支露各機關の諒解を得て無期停電を發表し發電所には看視人を附することとして一先づ従事員を引揚げしめたり。

斯くの如き状態なりしかば、大正九年末の缺損は實に金壹萬貳千八百八拾圓の多きに達し、別に買收價格の内八千圓は明かに買收報償として仲介者に與へられたるものなるを以て之をも加算するときは缺損額は優に金貳萬八百圓に上れり。

越えて十年一月前記看視人よりの報告に依れば在哈爾濱のトイカチヨフ氏は密門鐵道病院長等と協同して同事業の買收を計畫中なりとのことなりしも、鐵嶺電燈局より實地調査せる結果、果這は畢竟爲にせんとする者の奸策なることを知り得たり。然れども停電久しきに互るときは自然斯くの如き運動も起り、延ては支那側官民の蠢動ともなる處あり、絶對廢業するか然らずんば再興營業するかの岐路に逢着せるを以て鐵嶺電燈局より再び現地に出張の上實情を調査せしめたるところ、汽罐内部の大修理並煙突の改築を主なるものとし、此の際約金五千圓を投ぜざれば再興も覺束なく、他面季節並四圍の事情よりしても當分現状の儘を可とするに決し、約一箇年放任して願みざりき。

然るに同年十一月滿鐵會社は漸く事業再興の時至れりと爲し長春電燈營業所に再調査を命じ約金參千五百圓(現物出資額七千六百圓)を以て改修再興する確信を得たるを以て取急ぎ之が準備を整へ同十二月より送電を開始するに至り翌十一年三月末には點燈數七百を算へたり。

斯くて事業は一時小康を得一千燈以上の供給も敢て至難ならざる状態に在りしも既設發電機の容量を以てしては到底之に應じ得べくも非らず、且つ其の後も發電機の小故障續出して又もや巨額の缺損を招くの止むなきに至りたり、依つて三度鐵嶺電燈局は滿鐵に對し金貳萬參千圓の事業資金の融通方申請したるが當時鐵道機關庫の撤廢並特産市況の不振に因り同地市中の凋落甚しく右救済案は滿鐵の認可するところとならず、遂に大正十二年九月限り營業を休止せり。

翌十三年三月鐵嶺電燈局は事業設備一切を在哈爾濱の獨商イフリアンド商會に對し金壹萬貳千圓を以て讓渡せり。

斯くして鐵嶺電燈局は完全に本事業と絶縁せらるゝに至りたるが買収に先立つて調査に多分の缺陷あり、繼承後も監督の行届かさざりし憾みもあり、全く之が經營を失敗に終らしめ結局金四萬五千六百圓餘の損失を蒙りたり。

斯くてイフリアンド商會の手に依り發電機容量六十二KWを設備し、電燈約一千五百燈(需要約二百)を供給せり、其後在哈爾濱の呂泰公司(滿人呂泰氏露人シビツコーフスキー氏共同經營之を一九三一年九月國幣二六、〇〇〇圓折半にて譲り受け經營せるも發電所汽罐の故障續出し需要者間に相當非難の聲ありし時北鐵經營の發電所より収益按分の條件にて共同供給の交渉ありたるも協調ならず、密門電燈廠は之を拒絶し故障續出の汽機を廢し、現在二六KW發電機とロ

コモビル四五馬力を運轉し供給しつゝあり、最近某日本人を通し哈爾濱電業局買収方交渉ありし由にて先方は國幣三〇、〇〇〇圓餘の讓渡豫定額の由とか聞く。

密門電燈廠供給區域は德惠縣張家溝特別區及第四區にして鐵道左側に限られ需要家は概ね商農にして昭和三、四年の匪賊の襲撃に住民逃避し當時やゝ部落衰微せしも治安回復に従ひ居住民増加し活氣を呈す。

一、資 本 金

公稱資本金 (國幣) 二六、〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者シーメンス 種類直流 電壓二二〇 廻轉數一、〇五〇  
容量二六KW 臺數一

汽 機

製作者バーヂニナ (WuhumNo.4558) 種類ロコモビル 汽壓一二  
容量四五馬力 廻轉數不明 臺數一

其 他

三二KW及五KW發電機一八馬力一六馬力オイルエンジンある由なるも建物の片隅に發電機のみ其影を認む

三、内、外、線、設、備

各 説

各 説

三二八

電壓二二〇V 電氣方式直流二線式電柱數二六〇

四、需要狀況 (九年九月調)

定額	燈	二九六燈
街	燈	六〇燈
計		三五六燈
從量	燈	五〇戸 (燈數不明)
五、從事員	主任	リトウイノフ 他五名

#### 4 扶餘……扶餘電燈股份有限公司

大正十五年當時の扶餘縣長李科元氏の主唱にて地方人經營の株式組織とし資本金國幣十二萬圓にて建設にかゝり、昭和三年二月營業を開始するに至れるも、爾來資本不足の爲同氏より哈大洋六萬元の融通を受け辛うじて現狀を維持しつゝあり。最近我社に讓渡申込ありたれど未だ具體的計畫に至らず。

一、資本金 (國幣) 一、二〇〇、〇〇〇圓

二、發電設備

發電機	製作者英國E社	種類三相交流	電壓四〇〇V	周波數五〇	回轉數六〇〇	容量一二〇KW
汽機	臺數一基					

汽機	製作者EMC	種類雙筒臥式複汽機	馬力數一二〇	回轉數二〇〇回	臺數一基	
汽機	製作者EMC	種類ロコモビル	型水管式	汽壓一七〇封度	公稱馬力數一五〇馬力	臺數一基

三、需要狀況

電燈數	定額燈	五三七戸	一一〇〇燈
	從量燈	六四戸	九八五燈
	計	六〇一戸	二二四五燈
電力	發動機	一戸	七五馬力

#### 5 松花江

一、九二三年開始せる露人經營の電燈公司あり、ケンペリ瓦斯機關による直流三線式四四〇V 三二KW發電所を有し北鐵及一般に供給しつゝある由なるも内容不明なり。

### 三、龍江省

#### 1 拜泉……殖東電燈有限公司

當公司は大正十四年資本金九萬九千八百元四十二名の株主により創立せられ、以來順調なる經營を持續し一時供給燈數四千を數へたることありしが、昭和五年來の財界不況に禍ひされ、加へて事變以來兵匪の危に遇ふこと數次商館の閉鎖續出し、爲に需要の激減を來し經營難を仰つ

各 説

三二九

に及び遂に救済方を縣廳に求むるに至れり。こゝに於て縣の有力者會商を重ね救済の道を見出さんと努めたるも資本融通の法なく何等具體的な救済方法をも講じ得ざりき。されば現在の公事は日々の集金にて購ひ得た丈の燃料を以て發電しつゝあり、氣息奄々の態なりと。

一、資 本 金 (八・五)

公稱資本金 國 幣 九九八〇〇元  
興 業 費 同 三二〇〇〇元

二、發電所設備 (八・五)

發 電 所

製作者 S.S. 種類 直流複捲三線式 電壓 五〇〇 V 容量 四八 KW 臺數 一基  
製作者 不明 種類 直流複捲三線式 電壓 四四〇 V 容量 一二五 KW 臺數 一基

汽 罐

製作者 バデニヤ 種類 ロコモビル 汽壓 一〇 臺數 一基

製作者 スミス 種類 ロコモビル 汽壓 一五〇 封度 馬力 數 一〇〇 馬力 臺數 一基

汽 機

種類 堅型複式 容量 六〇 馬力 臺數 一基

三、内外線設備 (入・五)

電 柱 本 數 二七一 本

四、需要狀況 (八・五)

電 燈 數

定 額 燈	二〇〇 戶	四二四 燈
從 量 燈	一八 戶	二八三 燈
街 燈		一一五 燈
計	二一八 戶	八二二 燈

五、從 事 員 (八・五)

計 一九 人

2 納 河

重油機を施設し十六燭光換算にて約二千燈を供給すと聞ても業態未詳なり。

四、濱 江 省

1 雙 城 堡 …… 耀 雙 電 燈 公 司

本公司は大正三年一月額面一百留五百株を募集したりしが應募者將來不利益なりとの見越しをつけ違約する者多く、僅かに拂込額五千二百留を得たるのみなりき。茲に於て發起人蔣雅堂氏は自己の不動産を賣却し二萬六千五百留を投資したるも尙不足を告げしを以て諸機械類を擔保とし殖邊銀行より四千留を借受け韓慶堃氏を支配人として同年四月漸く營業を開始するに至れり。

其後大正十五年五月北門外に發電所を新に建設し、資本金を哈大洋三十萬元に更め現に百六十KW發電機二基を設備し電燈三千四百燈(需要家數七)供給しつゝあり。  
昭和九年二月事業買収方に就き實業部に對し斡旋依頼ありたり。

一、資 本 金 (七・六)

公稱資本金 哈大洋 三〇〇〇〇〇元  
興業費 同 四九三〇一〇元

二、發電所設備 (七・七)

發電機

製作者 S.S. 種類 三相交流 電壓 五、二五〇V・周波數 五〇 廻轉數 七五〇回 容量 二四〇及一六〇 KW 臺數 二基

汽 罐

製作者 ウルフ 種類 ロコモビル 汽壓 一三〇封度 臺數 二基

汽 機

製作者 S.S. 種類 ロコモビル 馬力數 二三五馬力 廻轉數 二一〇回 臺數 二基

三、内外線設備 (七・七)

電 壓

高壓 五、五〇〇V 電燈用 一一〇V 電力用 二二〇V

電氣方式

三相三線及單相二線式

電柱本數

七六四本

四、需要狀況 (七・七)

電 燈 數

定 額 燈 六一〇戸 一四〇〇燈

從 量 燈 一一五戸 一五〇〇燈

街 燈 五〇〇燈

計 七二五戸 三四〇〇燈

五、從 事 員 (七・七)

代表者 車玉堂

2 阿城……阿什河電燈股份有限公司

本事業は初め大正十三年八月露人アポストロフ氏が十五KW直流發電機を施設開業せるものを昭和二年四月張星橋于一齋及于險舟等右事業買収を提唱、株式を募集して十月繼承せるものなり。同十一月官府より阿什河縣城及驛特別區を以て供給區域とすべき指令を受けたるも驛特別區には露人丸棉斯氏私營の既設電氣事業ありしが特別區の需要を滿し得ざるのみならず公式の供給權を得たるものに非ざる等の事情に依り昭和五年特別區行政長官の訓令を仰ぎて右私營電氣事業の營業を停止せしめたり。

最近匪賊横行して當市の凋落夥しく營業亦甚大なる打撃を蒙り缺損を續けつゝあるが治安恢復するに至らば相當業績の向上を望み得べしと言ふ。

一、資 本 金 (九・二)

各 説



各 說

二二四

公稱資本金 國幣 一〇〇〇〇〇圓  
興業費 同 一四二、三七〇圓

二、發電所設備(九・一二)

發電機

製作者 S S 種類三相交流 電壓五、二五〇 V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量一〇〇 K W  
臺數一基

汽 罐

製作者 マーシャル 種類ロコモビル 汽壓一九〇封度 馬力數一二五馬力 臺數一基

三、内外線設備(八・三)

電 壓 高壓五、二五〇 V 低壓二三〇 V

電柱本數 五三〇本

變壓器 一〇臺 總容量一二〇 K V A

四、需要狀況(八・三)

電燈數

定額燈	二七三戸	八五一燈
從量燈	七八戸	一七〇一街
計		一五一燈
計	二二一戸	二七一二燈

五、從事員(八・三)

正經理 張星橋

職員	六人
計	一四人
計	二一人

3 一面坡……昌隆電燈股份有限公司

當地驛特別區には電氣事業あれども一般商民は電氣供給の餘澤に浴せず、旁支那側に自主的思潮熾なるものあり。大正十三年郭子明前市政局長楊紹齊及盧壽齡の諸氏相謀り、商民への電氣供給に任ずる事業を目論み、株式を募集することとし、昭和三年十一月官府の許可を得翌四年十一月點燈開業せり、然るに驛特別區グーベルト・ジョンズ事業との間に供給上の紛議を醸し彼此相譲らずして滿洲事變に至り漸く結末を見ることを得たり、公司營業四年、其の間ジョンズ事業との争執及匪賊の受難等の事情に依り業績舉らずして負債の償還に苦しめられつゝあり。

一、資 本 (九・一二)

公稱資本金	哈大洋	二〇〇,〇〇〇元
拂込資本金	同	八〇,〇〇〇元
興業費	國幣	一二〇,二〇二圓

二、發電所設備(九・一二)

瓦斯エンジンにして瓦斯發生裝置を有す

發電機

製作者 G E 種類三相交流 電壓四〇〇 V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量一〇〇 K W 臺

各 說

二二五

各 説

二二六

數一基

エンジン

製作者クロスレーブラザース 容量一五四—一七〇KW 回轉數二四〇回 臺數一基

三、内外線設備 (九・一二)

電 壓 二二〇V

電氣方式 三相四線式及单相二線式

線路延長 一五・二KM

線路延長 四三・六八〇KM

電柱本數 三八二本

四、需要狀況 (九・一二)

電燈數 三七五戸

定額燈 六二一燈

從量燈 一・二四戸

街燈 六八五三燈

計 燈 一五二燈

計 四九九戸

五、從事員 (九・一二)

董事代表 盧張玉瑣 七人

職員 一人

計 二三人

4 石頭河子……福盛電電公司

當公司はもと横道河子福盛電燈公司の分廠として昭和二年六月現大洋三萬元を以て營業開始せられたるものにして其後横道河子福盛公司より分離し張文光氏の經營するところとなる開業當初は約千五六百燈點燈の豫定なりしが昭和四年三千燈前後に増燈するを得たるも事變の勃發により市民の難を避くるもの續出し一時休業の止むなきに至れり其後官民の點燈要求切なるものあり依つて當地農商務會、軍隊、警察等協力し遂に昭和九年十月初旬再び開業の運びとなりたり然れども地元の商況不振にして需要家少なく經營困難なり。

一、發電所設備 (九・一二)

發 電 機

第一號機

製作者S.S. 種類直流三線式 電壓四六〇V 廻轉數一、〇五〇回 容量五三KW 臺數一基

第二號機 (現在使用)

製作者W.H. 種類直流二線式 電壓二五〇V 廻轉數一、〇五〇回 容量二四KW 臺數一基

汽 罐

製作者スコダ 容量一五〇馬力 汽壓二〇〇封度型橫型煙管式

汽 機

製作者エンブルグ、エレクトリック、エンド、メカニカル、ウォークス 種類堅型複式 廻轉數三五〇回

各 説

二二七

各 説

二、内外線設備(九・二)

方 式 直流三線式  
 回 線 數 一回線  
 電 壓 二三〇V  
 電線種類 裸銅線  
 支柱物種類 木柱  
 支持物數 一六四本  
 電線路巨長 四八KM  
 電線延長 一四八二KM

三、需要狀況(九・二)

電 燈 數 三九〇燈(街頭五〇燈を含む)  
 定 額 燈 二三七戸  
 從 量 燈 一六戸  
 電 力 ナシ

四、従事員(九・二)

經理 張文光 一人  
 職 員 四人  
 備 計 五人

5 亞布洛尼……近藤林業公司事業

本公司の本店は哈爾濱にあり當地は同公司工場の所在地にしてみても露人カワリスキン氏の經營に係り相當古き歴史を有し昭和八年始に至り近藤林業公司の經營に移れるもその間の經過詳かならず。本公司は原來自家用なれどもその餘剩電力を一般市民に供給し居るものなり。

一、發電所設備

發 電 機

第 一 號 製作者GE・種類交流三相式 電壓二三〇〇V  
 容量九〇KW・周波數六〇サイクル 廻轉數一、二〇〇 臺數一臺

第 二 號 製作者日本大阪 種類直流二線式 電壓二二〇V  
 容量五〇KW・周波數六〇サイクル 廻轉數七五〇 臺數一臺

汽 罐 種類煙管式 汽壓二〇〇封度 馬力數八五馬力  
 製作者ウールフ 臺數一臺

汽 機

種類ロコモビル 馬力數八五馬力 製作所ワトルク 臺數一臺

二、需要狀況(九・二)

定 額 燈 一七一燈  
 從 量 燈 不詳  
 計 一

各 説

6 寧安……裕民電燈廠

當地電氣事業は大正九年土地の有力者張恩氏外數名に依り創立されたるものにして、最初は小規模なる汽機汽罐を設置使用せるも、大正十二年に至り現在の機器に据換へ旁ら油房を兼營せしも所期の利益を擧ぐることを得ず損失を招きて漸次經營難を啣つに至り、遂に大正十四年郭松齡氏の弟郭任生氏に全事業を哈大洋六萬六千元にて讓渡せり。爾來郭任生氏に於て經營することとなりたるが、大正十五年奉郭戰爭となり、郭松齡氏死去するや張作霖氏に沒收されたり。昭和三年張學良氏より郭任生氏に返還されて今日に至る。滿洲事變前は街燈約三百燈を合し約三千燈を供給し業績順調なりしも、最近は匪賊入市のため混亂して盜電多く經營著しく困難を訴へるに至り、昭和八年七月奉天省實業廳總務科長升巴氏を通じて滿電に事業買収方の交渉あり、滿電之れに對し滿洲國政府當局の諒解を得置かれ度、一方滿電は之が具體案作成目滿合辦にて經營すべく交渉準備を整へおくべしとの回答を爲せり。

其の後當地官民に於ても、現在の電燈廠にては送電状態不良且つ燭力弱く満足なる供給を望み得ざる状態なれば警備上並土地發展の點から見てわが社の進出を希望するところあり、尙前に當廠と實業部との間に於て折衝中なりし事業讓渡に關する諒解成立したれば、目下協議中なり。

一、資 本 金 (七・二)

公稱資本金 哈大洋 六六〇〇〇元  
拂込資本金 同 六六〇〇〇元

二、發電所設備 (八・三)

發電機  
第一號機 製作者S.S. 種類直流三線式 電壓四五〇V 廻轉數一、〇七〇回 容量五四KW 臺數一基  
第二號機 製作者ライエル・マヌファクトリンガ種類直流二線式 電壓二三〇V 廻轉數一、二五〇回 容量二五KW 臺數一基  
汽機 製作者アールウルフ 汽壓一八〇封度 容量一〇〇馬力 臺數一基

三、内外線設備 (八・三)

電 壓 二二〇V  
電 氣 方 式 直流單相三線及二線式  
電 柱 本 數 五五〇本

四、需 要 状 况 (八・三)

定 額 燈 一五〇戸 五〇〇燈  
從 量 燈 二八戸 三〇〇燈  
軍 隊 使 用 電 燈 四〇燈  
計 一七八戸 八四〇燈

各 説

各 説

五、從 事 員 (八・三)

經理 郭任生  
 事務員 六人  
 工匠 六人  
 雜役 三人

7 綏芬河……寶成電燈公司

當地は東支鐵道東部線と烏蘇里鐵道との接合點に位する國境驛として市街比較的殷盛なり  
 寶成電燈公司是、季金生氏外六人よりの出資に成る合資會社にして、大正九年四月の創立に係る。

一、資 本 金 (七・二)

公稱 資本金 哈大洋 八〇、〇〇〇元  
 興業 費 同 二六六、〇〇〇元

二、發 電 所 設 備 (八・三)

發 電 機  
 第一號 機 製作者スコダ 種類直流通三線式 電壓四七〇V 容量一〇〇KW  
 製作者スコダ 罐  
 製作者スコダ 機 容量一四七馬力 種類堅型複式

第二號 機

發 電 機

製作者SS 種類直流通二線式 電壓二三〇V 迴轉數一〇八〇回 容量三一KW  
 製作者SS 種類直流通二線式 電壓二三〇V 迴轉數一二二〇回 容量三六KW

汽 機

容量八七馬力 種類ロコモビル

三、內 外 線 設 備 (八・三)

電 柱 數 六〇〇本

四、需 要 狀 況 (八・三)

電 燈 數	六二〇戶	三五〇〇燈
定 額 燈	二五〇戶	四二〇燈
從 量 燈	八七〇戶	三九二〇燈
計	六戶	八九五馬力
電 力 容 量		

五、從 事 員 (八・三)

經理 季金生 顧問 白濱文雄 副經理 譚景川

8 東寧……耀東電燈公司

一九二八年設立されたる滿人經營に係り五二KW發電所を有し一、〇〇〇燈餘供給し居り開

各 説

業當時は資本金二萬圓と稱されてゐた詳細不明なり。

### 9 滿溝……滿溝站公立電燈股份有限公司

當地電燈公司は大正十四年の開設にして北鐵及一般に供給なしつゝあり。

- 一、資 本 金 哈大洋五〇、〇〇〇元
- 二、發 電 機 マーシャル製ロコモベル 直流三線式四四〇V 容量六〇KW
- 三、燈 數 一、三二二燈
- 五、代 表 者 于伯謙

### 10 安達……安達電燈廠

始め當地の電燈は自治會より資金を醸出し代表者七名を擧げて經營の全般を委任したりしも、大正十二年二月猶太人イリヤクリメンツイチイフランド氏は期間十年の契約に依り之を租借せり。當地は北滿鐵道要衝の地に在り特産の集散盛なれども容量二十五KW(日與村電)竝四十五KW(クハウス製作)各一基の直流發電機を設備するに過ぎず電燈數も僅かに一千八百燈にして市街の照明程度も土地柄に比し著しく劣れり其他の業態未詳なり。

### 11 松浦……呼海鐵路局

昭和二年呼海鐵路總局の所在地松浦に三百五十KW發電機一基を据付け、自家工場の餘力を以て一般に供給を開始せり次で昭和六年呼蘭製糖會社にありし百二十六KW發電機一基を移

設し現に二千燈を供給しつゝあり。

### 一、發電所設備(七・六)

- 發 電 機(第一)
  - 製作者G.E. 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 廻轉數五〇〇回 容量二二六KW
  - 汽 機
    - 製作者R.M. 種類ダブルアクトンク 廻轉數五〇〇回
  - 發 電 機(第二)
    - 製作者M.V. 種類三相交流 電壓三、三〇〇V 周波數五〇 廻轉數一、〇〇〇回 容量三五〇KW
    - 汽 機
      - 製作者M.V. 容量三五〇KW 廻轉數四、五〇〇回
    - 汽 罐
      - 製作者B & W 種類水管式 汽壓一七五封度 加熱面積一、四一平方呎 臺數二基

### 二、内外線設備(七・六)

- 電 壓 高壓三、三〇〇V 低壓一、一〇V
- 電 氣 方式 三相三線式及單相二線式
- 電 柱 本數 一、五〇〇本
- 變 壓 器 二七臺

### 三、需要狀況(七・六)

- 電 燈 數 五〇〇燈
- 定 額 燈

各 說

從 量 燈 一、五〇〇燈

計 二、〇〇〇燈

四、從 事 員

從 事 員 總 數 三二人

12 呼

蘭

當地に於ける電気事業は明治四十年資本金哈大洋五萬元を以て設立せられたるも、後黑龍江省官銀號に買収され呼蘭電燈廠と稱し、直流二十三KW發電機を設備し電燈約八百五十燈を供給しつゝありしが數年前休業するに至りたり。

最近新會社設立せられたりと仄聞するも業態等一切未詳なり。

### 13 綏化……綏化電燈廠

當廠は始め黑龍江省官銀號の經營に係り大正九年六十馬力直流發電機を設備して開業、同一年製粉業を兼營せるが之が爲め電力に不足を生ぜるを以て十五年五十八KW、九十六KW交流發電機各一基を設備し、更に倉庫業をも經營相當の業績を擧げつゝあり。海倫、海拉爾兩電燈廠と共に借入金の抵當物件として哈爾濱銀行團に擔保となり居れると謂ふも事業は自ら滿洲中央銀行に接收移管されたり。

一、資 本 金 (七・四)

公稱資本金 江大洋 二五〇〇〇〇元

### 二、發電所設備 (八・五)

發 電 機

製作者S.S. 種類三相交流 電壓三、〇〇〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量五七KW 數一基

製作者S.S. 種類三相交流 電壓三、一五〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量八八KW 數一基

汽 罐

製作者ウルフ 種類ロコモビル 臺數一基

汽 機

製作者ウルフ 種類ロコモビル 馬力數二三五馬力 臺數一基

三、内外線設備 (八・五)

電 壓 高壓三、〇〇〇V 低壓二二〇V

電 柱 本 數 三九一本

變 壓 器 一臺 一八五KVA

四、需 要 狀 況 (八・五)

電 燈 數

定 額 燈 六七七戸 一、二二九燈

從 量 燈 一九二戸 三、〇七九燈

各 說

各 街 燈 一九四燈  
 其 他 燈 四九五燈  
 計 八六九戶 四九九七燈

五、從 事 員 (八・五)

管理 楊景潤 襄理 王裕思

14 望奎……共和電燈公司

當公司は大正十三年永發成製粉會社の自家用として開設されたるものにして其の餘力を一般需要家に解放せしも營業不振を極め、多額の負債を生じたる爲事業を債權者に譲渡し今日に及ぶ。

一、資 本 金 (七・一)

公稱 資本金 哈大洋 一八九、二九五元  
 借 入 金 同 一、二〇〇元  
 興 業 費 同 一九〇、一八〇元

二、發電所設備 (八・五)

發 電 機  
 製作者グレスチストローム 種類直流三線式 電壓四七〇V 廻轉數一、二〇〇回 容量九〇KW 臺數一基  
 汽 罐 汽 機  
 製作者アスマレ 種類ロコモビル 汽壓一二 容量一二〇馬力 臺數一基

三、内外線設備 (八・五)

電 柱 本 數 四〇〇本

四、需要狀況 (八・四)

電 燈 數	定 額 燈	二一三戶	四一九燈
	從 量 燈	一七戶	一一一燈
	街 燈		一八〇燈
計		二三〇戶	七二〇燈

五、從 事 員 (八・五)

經理 李榮磁 工頭 于鴻恩  
 其 他 一六人

15 海倫……海倫電燈廠

昭和二年資本金哈大洋貳拾貳萬元にて株式組織海耀電燈公司開設せられ製粉業を兼營せるが當時小容量の直流發電機を使用せる爲め電力不足を告ぐるに至りしを以て、昭和三年現在の百KW交流發電機一基を購入せり。其の後經營困難の爲め、昭和六年春黑龍江省官銀號之を買収せるも業績依然不振を極めつゝあり、緩化、海拉爾兩電燈廠と共に借入金の抵當物件として、哈爾濱銀行團の擔保になり居れりと謂ふも事業は自ら滿洲中央銀行に接收移管されたり。其後昭和九年六月鈴木嘉雄を招聘し鋭意改善せる結果最近收支償ふに至れりと

各 說



各説

一、資本金(二〇・一)

興業費 國幣 二〇一,〇〇〇圓

二、發電所設備(二〇・一)

發電機

製作者ボーセ 種類三相交流 電壓三,三〇〇V 周波數五〇 廻轉數七五〇回 容量一〇〇KW 臺數一基

汽罐・汽機

製作者エステラー 種類ロコモビル 汽壓一二 容量一二〇馬力 臺數一基

三、内外線設備(二〇・一)

電壓 高壓三,三〇〇V 低壓二二〇V

電柱本數 五八〇本

變壓器 一二臺 總容量一五〇KVA

四、需要狀況(九・二)

電燈數

定額燈 一〇九二燈

從量燈 二,三二八燈

街燈 三〇〇燈

計 五〇二月 三,七一〇燈

五、從事員(二〇・一)

管理 鈴木嘉雄 事務員 八名

發電所	七名
内外線	四名
雜	六名
計	二十五名

16 珠河……東耀電燈公司

大正十五年十一月の開業にして資本金哈大洋八萬元を以て李金生及王子禎氏等の發起により經營し來りしが資本に不足を生じ十五萬元に増資す。始め經營順調なりしが昭和七年春匪賊の襲來に會ひ施設一部焼失し經營困難に陥り一時休業せり。その後昭和八年に至り治安やゝ回復し開業の議起りたるを以て同年七月不良箇所及機械の修繕を行ひ昭和九年一月一日再び開業の運びに至れり再開業後の成績は依然不良にして缺損を示し救済の方法を講ぜざれば再休業の止む無きにいたるやも知れぬ状態にあり。

一、資本金(九・二)

公稱資本金 國幣 一五〇,〇〇〇圓

興業費 同 一〇〇,〇〇〇圓

二、發電所設備(九・二)

發電機(汽機)

製作者スコダ 種類直流 電壓四四〇V 廻轉數二五〇回 容量五〇KW 臺數一基

汽罐

各説

各 說

製作者スコダ 汽壓一〇封度 容量七五馬力 臺數一基

二四二

汽 機

製作者スコダ 種類堅型單筒

三、需 要 狀 況 (九・二二)

電 燈 數

定 額 燈	九七戸	二三一燈
從 量 燈	二三戸	二七三燈
計	一二〇戸	五〇四燈

四、從 事 員 (九・二二)

代表者 李東序	職員	三人
備人		四人
計		七人

### 17 巴 彥……彥星電燈公司

民國十八年八月傅宗周等の發企にて創立計畫され翌年三月開業を見たり本公司の形態は合資組織にあれば滿洲國電氣事業經營方針に添はざるをもつて股份有限公司に改組す可く目下手續中なり開設以來營業成績は良好なりしが事變後需要家の減少に依り現状維持の程度なり。

一、資 本 金 國幣 四萬圓(全額拂込)

二、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者英國ブラス會社 種類直流二線 電壓二二〇V 回轉數六七〇回 容量三六KW 臺數一

基

汽 機

製作者英國ナショナル 種類瓦斯機關 馬力數四八馬力 回轉數二三〇回 臺數一基

瓦斯發生機

製造者英國會社不明 加熱面積二〇五四平方米 型圓筒方 臺數一基

三、内 外 線 設 備

電 壓 二二〇V

電 氣 方 式 直流二線

回 線 數 一

四、需 要 狀 況

電 燈 數

定 額 燈	五二六燈(街燈六〇ヲ含ム)
從 量 燈	四二六燈
計	九五二燈

五、從 事 員

代表者 傅宗周

其 他 十四人

各 說

二四三

### 五、錦 州 省

#### 1 義……義縣電燈廠

大正十一年の創業に成り初め有力者の合資に依りたるも收支不良の爲一時休止せしものを義縣政府の補助金に依り供給を再開せり。後再度休業せるが商務會代つて補助金を支出し營業を持続せしめて今日に至る。一箇月經費大約參百五拾元にして商務會之を補助すと聞く。

一、興 業 費 投資當時奉票約五〇、〇〇〇元

二、發電所設備 (七・四)

發電機

製作者シームンス 種類直流 電壓二五〇、二八〇V 回轉數八〇〇回 容量三五KW 臺數一基

汽 機

製作者英國Richard Garrett & Sons Ltd. 回轉數八〇 馬力數二五馬力 型橫型 種類ロコモビル 臺數一基

汽 罐

製作者英國リチアードグレイソン會社 種類ロコモビル 型臥式加熱面積一七五方呎

三、内外線設備 (一〇・一)

電 壓 二二〇V

電柱本數 一一四本

四、需要狀況 (一〇・一)

電 燈 數 一六六燈

五、從 事 員

代表者 商務會

其 他 三人

#### 2 八道壕……八道壕電氣廠

本廠は固と東北礦務總局の管理の下に資本金現大洋百拾七萬元に依り施設せられたるものにして大正十三年、三千二百KW交流發電機一基を新設し、炭坑用動力並一般電燈に供給し居たるも大正十五年に至り更に同容量の發電機一基を増設せり。送電線路費現大洋拾五萬元を投じて黒山、大虎山、北鎮、溝帮子、新立屯、芳山鎮、新民及白旗堡に對し餘剩電力を供給しつゝあり。昭和七年一月其の筋の依頼を受け最近迄滿電社員數名派遣され管理指導に當り居りたり。

#### (1) 黒山……黒山電氣分廠(附大虎山支廠)

大正十五年四月八道壕電氣廠より受電を開始す。受電變壓器容量二百五十KVAなり。大虎山に支廠を置く受電變壓器容量六十KVAなり。

(2) 北鎮……北鎮電氣分廠(附溝帮子支廠)

大正七年二月奉天秦文煊氏等は北鎮公益電氣公司設立を認可せられたるに依り同年七月鐵嶺電燈局との間に設立資金拾參萬圓に關する借款假契約を結び工事に著手したるも當地第二十八師長汲某の反對を受け、外線の架設不可能に陥りたるに依り同公司の建設を中止し八月一月機器一切を電燈建設準備中の西安に移送し既設發電所家屋も亦十五年八月之を處分せり。其の後大正十五年に至り八道壕電氣廠は當地に送電し分廠を設く。受電變壓器容量は三百六十KVAなり。尙溝帮子に支廠を設く。受電變壓器は百十KVAなり。

(3) 新立屯……新立屯電氣分廠(附芳山鎮支廠)

大正十五年五月八道壕電氣廠より受電を開始す。受電變壓器容量二百五十KVAなり。芳山鎮に支廠を設く。受電變壓器容量は三十KVAなり。

(4) 新民……新民電氣分廠(附白旗堡支廠)

大正十五年五月八道壕電氣廠より受電を開始す。白旗堡に支廠(十五KVA)を設く。受電變壓器容量五百KVAなり。

本、分、支、廠、綜、合

一、資 本 金 (八・三)

興 業 費 國 幣 一、二一七、九四八元

二、發 電 所 設 備 (八・三)

發 電 機

製作者S.S. 種類三相交流 電壓六、六〇〇V 周波數五〇 迴轉數三、〇〇〇回 總容量六、四〇〇KW 臺數二基

汽 罐

製作者B&W 汽壓二〇〇封度 加熱面積三、一四〇平方呎 馬力數三一〇馬力 臺數二基

汽 機

製作者クルツア 種類インパルス八段及十段 馬力數四、五〇〇馬力 迴轉數三、〇〇〇回 臺數二基

三、內 外 線 設 備 (八・三)

電 壓

特高三五、〇〇〇V送電 高壓六、六〇〇V 電燈用二二〇V 電力用三八〇V

電 氣 方 式

三相三線式

電 柱 本 數

送電線二、二九九本 配電線一、三六〇本

變 壓 器

臺數五七臺 總容量八三四KVA

四、需 要 狀 況 (八・三)

各 説

各 電 燈 數  
 定 額 燈 一、八五二燈  
 從 量 燈 八、六三八燈  
 街 燈 五八二燈  
 計 一、〇七二燈(換機三一二)  
 電力容量 四九一馬力(換機六二七馬)  
 五、從 事 員 (八・三)  
 代表者 武谷信吉  
 其 他 一二人

### 六、安 東 省

#### 1 通化……通化電燈股份有限公司

本公司は大正十三年四月資本金奉小洋貳拾萬元にて創立せられたるものにして、現に資本金を現大洋拾五萬餘元に改め六十KW發電機を設備して電燈約一千七百燈を供給す。收支償はず辛うじて經營を続けつゝあり。我社との合辦に依り従來の不振を恢復し將來の發展に資せんとの意嚮を有し居るやうに仄聞す。

一、資 本 金 (七・二二)  
 公稱資本金 國 幣 一五六五七〇元

興 業 費 同 一五五三八〇元

#### 二、發 電 所 數 備 (七・二二)

發 電 機 製作者G.E. 種類三相交流 電壓二三〇〇V 周波數六〇 廻轉數一、二〇〇回 容量六〇KW 臺數一基

汽 機 製作者B & W 汽壓一二〇封度 馬力數一〇〇馬力 臺數一基

三、内 外 線 設 備 (七・二二)  
 電 壓 高壓二三〇〇V 低壓一一〇V

電 氣 方 式 三相三線式

電 柱 本 數 二五〇本  
 變 壓 器 臺數二一臺 總容量六九KVA

四、需 要 狀 況 (七・二二)  
 總 燈 數 一七〇〇燈

五、從 事 員 (七・二二)  
 代表者 解起雲

其 他 一六人

七、間 島 省

1 龍井村……大興電氣股份有限公司

大正八年武樹勳氏事業開設の許可を得たるに依り鮮支人より株式を募集せしも種々の事情に依り大正十三年八月に至り漸く點燈することを得たり。資本金拾萬圓と稱す。發電機は九州水力電氣株式會社設備中のものを譲受けたるものなり。當公司は最近株主間の紛争絶へず數年間決算報告をなさざる状態にして詳細不明なるも東拓より二五、〇〇〇圓其他の負債を有せり。

一、資 本 金 (七・四)

公稱 資本金 金 一〇〇,〇〇〇圓  
興 業 費 金 一二〇,〇〇〇圓

二、發 電 所 設 備 (七・七)

發 電 機

製作者 B.B.C 及 マザー プラット 種類 三相交流 電壓 三、五〇〇 V 周波數 五〇 容量 六〇 及 九六 KW 臺數 二基

汽 機

製作者 B & W 汽壓 一・二〇 封度 加熱面積 九五〇 平方呎 臺數 一基

汽 機

製作者 アレンソン 種類 整形復式 容量 一・二〇 馬力 臺數 一基

製作者 キャンメル 種類 吸入瓦斯機關 容量 一・七五 馬力 臺數 一基

三、内 外 線 設 備 (七・七)

電 壓 高壓 三、五〇〇 V 低壓 一・一〇 V

四、需 要 狀 況 (七・四)

電 燈 數

定 額 燈 一、八六〇 燈  
從 量 燈 一、〇〇〇 燈  
街 燈 一六〇 燈  
計 三、〇二〇 燈

五、從 事 員 (八・四)

總經理 武卓座 經理 武翔九 技師 セレンスキー  
其 他 二〇人

2 瑋春……旭春電燈公司

大正十一年八月孔佩元氏は資本金現大洋五萬元を以て旭春電燈公司を設立し供給區域を當市街一圓として漸次事業の擴張に努めつゝありしが發電機の故障續出し遂に休業の止むなきに至れり。爾來事業の復舊に努むるところあり、浦鹽方面より五十 KW 交流發電機一式を購入し露人技師を招聘して昭和二年三月再び營業を開始せり。後更に二十三 KW 直流發電機一基を増設す。然るに時局の影響に因り需要家約半數に減少燃料亦騰貴せし爲經營困難の故を以て最近

臨時に電燈料金の値上をなせり。

一、資 本 金 (七・三)

公稱資本 金 國 幣 五〇〇〇〇九

二、發 電 所 設 備 (七・三)

發 電 機

製作者芝浦 種類三相交流 電壓三三〇〇V 周波數五〇 容量五〇KW 臺數一基

製作者S.S. 種類直流 容量二三KW 臺數一基

汽 罐

製作者大阪電動機 種類瓦斯發生器 臺數一基

汽 機

製作者大阪電動機 種類瓦斯エンジン 容量九五及五〇KW 臺數各一基

三、需 要 狀 況 (七・三)

總 電 燈 數 六〇〇戶 一二〇〇燈

四、從 事 員 (七・三)

代表者 孔憲琳

3 頭道溝……延吉頭道溝聚盛湧電燈廠

延吉縣政府財務處主任張郁文氏並頭道溝聚盛湧燒鍋主任周天福氏との共同經營に依り聚盛湧の十餘年前金壹萬圓にて購入せる十五馬力發動機に上海より金壹千圓にて購入せる獨逸製

發電機を連結して昭和六年三月一日より營業を開始す。

當初は日本領事館に供給する目的にて開設されたるも漸次一般の需要増加し一時六〇〇燈に達したることありしも現在は領事館守備隊等に供給せるのみ。目下周文福及張斌兩氏の共同經營なり。

一、資 本 金 (八・三)

公稱資本 金 國 幣 一〇〇〇〇元

二、發 電 所 設 備 (八・三)

發 電 機

製作者T.H. 種類直流分捲 電壓一一〇V 廻轉數一六〇〇回 容量一〇三KW 臺數一基

原 動 機

製作者伏田鐵工所 種類木炭瓦斯發動機 容量一五馬力 臺數一基

三、内 外 線 設 備 (八・三)

電 壓 電燈用一一〇V

電 氣 方 式 直流二線式

電 柱 本 數 六五本

四、需 要 狀 況 (八・三)

電 燈 數

定 額 燈 二六〇燈

從 量 燈 四〇燈

各 説

各 說

二五四

五、從 事 員 (八・三)

三〇〇燈

代表者 張斌 工程師 于占清  
其 他 六人

八、三 江 省

1 佳木斯……景增源電燈廠

當廠は昭和二年十月設立されたるものにしてその当初は僅かに獨逸製五五馬力の機關を備へたるも電燈廠建設に際し獨逸製三一KW發電機を設備し越えて翌三年露西亞製一一〇馬力汽關一基を購入更に獨逸製五〇KW發電機を備へ昭和四年獨逸製六〇KW發電機を増設す而れども人口増加と共に其の光度低く且盗用多く經營成績不良ならざれば之が買收方を南滿洲電氣株式會社に申込たれど其の機熟せず八年十二月軍の駐屯と共に發展をなし省政府の設置に伴ひ一大飛躍をなし電燈數に於ても八〇〇〇灯近く豫想さるれど發電能力は現在に於ても不充分なれば需要の増加に應ずるには我社より受電の他なく實業部の懇懇により我社と受電契約をなさんとするが料金に關して一致點を見ず結局九年十二月十二日滿洲電業は六萬圓にて買收に決定せり我社は之により合辦會社設立をなす。

一、資 本 金 (七・二)

公稱資本金 哈大洋 一二〇,〇〇〇元  
興業費 同 一二九,一四六元

二、發電所設備 (八・五)

發電機

製作者SS 種類直流 電壓二三〇V 廻轉數一〇八〇回 容量三一KW 臺數一基  
製作者SS 種類直流 電壓二三〇V 廻轉數一二四〇回 容量五〇KW 臺數一基  
製作者獨M O F O G M 種類直流 電壓二五〇V 廻轉數八五〇回 容量六〇KW 臺數一基

汽 罐

製作者濱江聚興成鐵工廠 汽壓一四〇封度 容量各六〇馬力 臺數二基

汽 機

種類橫型複式 容量一一〇馬力 臺數一基

三、内外線設備 (八・五)

電 壓 二二〇V  
電 柱 本 數 二二一本

四、需要狀況 (八・五)

電 燈 數 五〇四戶 一〇五五燈  
定 額 燈 七一月 一〇六五燈  
從 量 燈 一三六燈  
街 計 燈 二二五六燈

各 說

二五五



各 説

五、從 事 員 (八・五)

經理 徐景峰 技術員 李忠一  
其 他 二人

2 富錦……東興德火磨電灯廠

當廠は大正五年製粉業の附帶事業として開業されたものなれど汽機陳腐にして能率悪く營業困難なるを以て吉林軍顧問部を通じその買収方を哈爾濱電業局に依頼し來れり。

一、資 本 金 (八・五)

投下資本 哈大洋 一〇〇,〇〇〇元

二、發 電 所 設 備 (八・五)

發 電 機

製作者 S.S. 種類交流 電壓五、二五〇V 廻轉數七五〇回 周波數五〇 容量九六KW 臺數一

基

汽 機

種類二セクシヨナル 汽壓一二五封度 容量三〇〇馬力 臺數一基

製作者 S.S. 種類ロコモビル 汽壓一二缸 容量八〇馬力 臺數一基

汽 機

製作者モスコウ 種類橫型複式 容量二五〇馬力 臺數一基

三、内 外 線 設 備 (八・五)

電 壓 高壓五、二五〇V 低壓二三〇V

電 柱 本 數 二三五本

四、需 要 狀 況 (八・五)

電 燈 數

定 額 燈 五二〇戸 一、七五〇燈

從 量 燈 五四戸 九〇〇燈

街 燈 一五〇燈

計 五七四戸 二八〇〇燈

3 通河……通河電燈廠

當地は松花江下流黑龍江省に屬する舍林河の河口に在り、戸數約二千を算へ當地方木材の集散市場たり。未だ獨立せる電氣事業なきも元黑龍江省官銀號經營の製材工場に於て容量十八KWの發電機を設備し、自家用電氣の餘力を以て市内約六十燈の需要に應ず。當廠も亦自ら滿洲中央銀行に接收移管されたるものと聞く。

九、黑 河 省

1 大黑河……恆曜電燈電力股份有限公司

本事業は大正五年紳商丁樹堂氏の發起により設立せられたる株式會社にして現在は梁官臣氏の經營なり。大正十四、五年頃純益年江洋貳萬元を超えたることありたるも、昭和四年露支紛争

各 説

の際機器、建物殆んど全部破壊せられ、一時營業休止の止むなきに至れり。其後再び復舊し今日に至るも、土地の衰微に伴ひ事業不振となり辛じて經營しつつある現状なり。

尙當公司は電話事業を附帶經營しつゝあり。

一、資本金 (七・二二)

公稱資本金 江大洋 一九八〇〇〇元

興業費 同 一〇〇、五七四元(電話二八、九八五元を合す)

二、發電所設備 (八・二二)

發電機製作者 S.S. 種類直捲自動式直流 電壓二五〇V 容量二二〇KW 臺數一基

製作者 S.S. 種類直流 電壓二三五V 廻轉數九〇〇回 容量八五KW 臺數一基

汽 罐

製作者 B & W 種類ロコモビル 汽壓一八〇封度 臺數二基

汽 罐

製作者 ベルリン 種類縦置複氣筒凝結式 馬力數三〇五馬力 廻轉數三七五回 臺數一基

製作者不明 種類ロコモチーア型 馬力數一二〇馬力 廻轉數九〇〇回 臺數一基

三、内外線設備 (八・二二)

電柱本數 四五〇本

四、需要狀況 (八・二二)

電燈數

定額燈 七六七戸

從量燈 七三戸

一八二〇燈

街 燈

計

八四〇戸

二〇五一燈

五、從事員 (八・二二)

經理 梁官臣

其 他

三九人(電話の修む)

2 環 環

汽力二十五馬力、二十一キロ半九十三アムペアの發電所を有し居る由なるも内容不明なり

十、興安省

1 海拉爾……海拉爾電燈廠

當地の電燈は大正二年第一後黒龍鐵道聯隊に依り創設せられ同隊撤退と同時に露人カメラノフ氏の經理に移りしも、大正八年三月更に海拉爾市の所有に歸し、東支鐵道従事員に依り監理せらるゝに至りたり。同年廣信公司に於て之が設備一切を廣信大洋五萬元にて買収するところあり、後幾許もなく廣信大洋拾萬元に増資せり。

次で廣信公司は昭和五年九月組織改まり黒龍江省官銀號と稱せられ、本電氣事業も同號の管理するところとなりたるが滿洲中央銀行の設立されたる後は亦同行に接收移管されたり。九年末滿洲電業に於て之を買収なし日滿合辦にて設立計畫中なり現在の業態左の如し。

各 説

二六〇

一、資 本 金 (八・二)

拂込資本金・ 國 幣 一六二,九七四元

借 入 金 同 九,八六〇元

興 業 費 同 一四八,四五〇元

二、發 電 所 設 備 (七・八)

發 電 機

製作者 S.S. 種類 直流 電壓 四六〇 V 廻轉數 六四〇 回 容量 二一五 KW 臺數 一基

製作者 A.E.G. 種類 直流 電壓 四六〇 V 廻轉數 八五〇 回 容量 八八 KW 臺數 一基

製作者 オブメクト 種類 直流 電壓 四七〇 V 廻轉數 九〇〇 回 容量 五二 KW 臺數 一基

製作者 S.S. 種類 直流 電壓 四七〇 V 廻轉數 八〇〇 回 容量 五五 KW 臺數 一基

汽 機

製作者 ヴルフ 種類 ロコモビル 馬力 數 四〇〇 馬力 廻轉數 一九〇 回 臺數 一基

製作者 ヴルフ 種類 ロコモビル 馬力 數 八〇 馬力 廻轉數 二一五 回 臺數 一基

三、内 外 線 設 備 (七・八)

電 壓 四四〇 V

四、需 要 狀 況 (八・五)

電 燈 數

定 額 燈 二,二二八 燈

從 量 燈 二,八三三 燈

計 五〇六一 燈

五、從 事 員 (七・八) 二二〇馬力

廠長 劉獻廷

其 他 三〇人

2 博 克 圖

北鐵西部線に位置する當地の電気事業は獨系露人チデマンの經營に係る電灯公司ありて博克圖鐵道附屬地内に供給す當公司は一九二三年の設立にして經營状態は平穩なれども北鐵接収の氣運に關聯して永久に當公司を繼續するの意思なく早急に讓渡の意向にして我社に買収方懇請ありたれば哈爾濱電業局よりその内容調査中なり。

一、發 電 所 設 備

發 電 機

製作者 シーメンス會社 種類 直流發電機三線式 容量 七〇 KW 電壓 四七〇—二三五 V

二、内 外 線 設 備

電柱本數 二九〇本 電線 二三〇ノード (ノードは四,三六〇ノ)

三、從 事 員 計十三名

一、休 止 中 の 主 なる 供 給 事 業

1 大 孤 山 (安 東 省)

各 説

二六一

大正十四年十月資本金現小洋四萬元(拂込壹萬)を以て元奉天省長翟文選氏の弟翟謀氏等の主唱にて土地の商務會及葛寶林氏協同普照電燈公司を創立し、重油機十五馬力(米フエアバンク)と十KW直流發電機(米G.E.社製)とを設備し電燈約三千八百燈を供給せしが成績不振にして二千餘燈に減じ昭和四年遂に廢業の止むなきに至れり。

其後新に滿電に於て事業開始の議起るを聞き再び開始せるが間もなく休止せり滿電に於ては地元との交渉煩瑣なるを以つて永く之を關知せざりしも最近地元の希望により計畫中に屬す五〇KW一臺千二百灯位の需要を豫想さる。

2 海

林 (安東省)

當地の電氣事業は大正七、八年頃まで英人ジョンヌに於て經營されたりしが、中東海林公司之を買收經營中の處、昭和四年三月失火し施設燒損して休業す。營業中は電燈數約二百五、六十燈なりしも發電機の容量小さく充分供給し得ざりしものと謂ふ。

3 董 沙

河 (濱江省)

昭和四年油房用の餘剩電力を一般に供給するため福泰電燈廠を創立約一千五、六百燈の需要に應ぜしも機器の故障續出し旁經營難に耐え得ず、昭和七年十二月休業の已むなきに至れり。目下の處機器としては六十馬力の汽罐一基殘するのみ。廠の經理陳密閣氏は昭和七年來哈爾濱に在り。

4 梨 樹

鎮 (濱江省)

當地は洗濯石鹼工場一、油房工場一ありて、其規模小なり、電燈公司ありたるも現在休業中にして、市内公共團體には穆稜煤鑛公司より送電を受けつゝありと聞く詳細不明なり。

5

横道河子福盛電燈公司 (濱江省)

北鐵沿線各驛電氣事業は多く露人の經營するところにして支那政府の許可あらざりしも露西亞革命後中東鐵路露支合辦となり附屬地行政權亦これと共に支那政府に回收さるゝや電氣事業經營權をも同時に回收せんとするの議起れり、本公司は即この機運に乗じ誕生せるものと云ふを得べし。當地電氣事業は原來露人フマコン氏の創設せしところにして北鐵沿線驛に供給する外一般住民にも電力供給を行ひ居りしが大正十五年當地雜貨商福源盛及増盛德兩商店はフマコン氏よりその事業一切を買收株式組織とせり。買收當時電燈數約千燈月收入千四百元を擧げ居れり、その後事變の勃發を見更に匪賊の襲來水災等により住戸散逸し經營著しく困難となり缺損を續けたるを以て昭和七年七月初旬終に休業の止む無きに至れり。

一、資 本 金 大洋一五〇〇〇元

二、發電所設備(九・二二)

第一號機

製作者A.E.G

各 説

各 説

種類直流三線式 容量四二KW・電壓四七〇V  
回轉數一〇〇〇回 壺數一基

第 二 號

製作者シーメンズ 種類直流二線式 容量三六KW 電壓二二〇V 回轉數一二二〇回 壺數一基

汽 機

種類 煙管式 汽壓一二〇封度 馬力數八〇馬力 筒數一壺

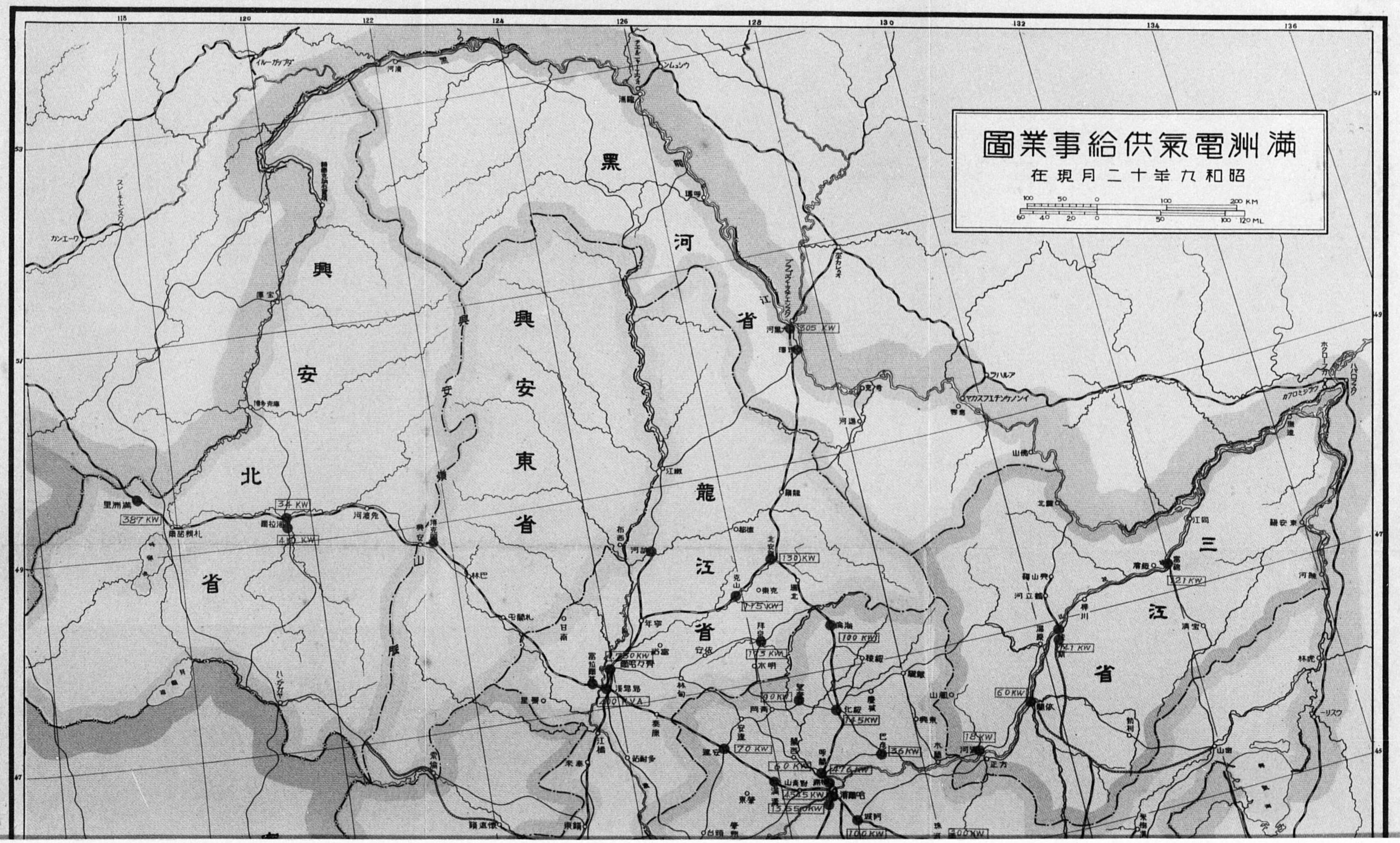
第 一 號

型 機型雙汽桶 馬力數四〇馬力 製作者ワグネル・エンジン・アンド・ホイストラー・ダス・二壺

第 二 號

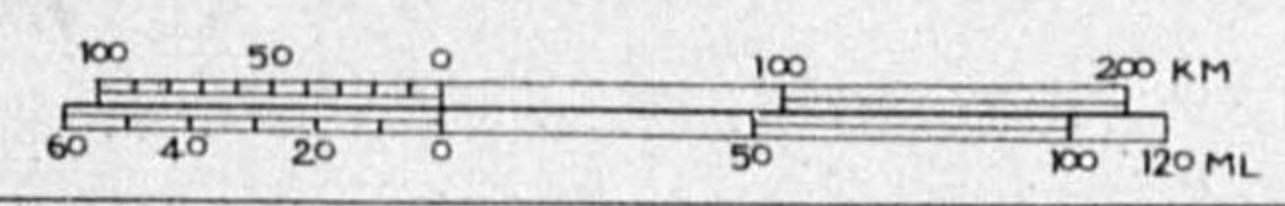
一八馬力 アトレス・エンジン・ワークス

露光量違いの為重複撮影

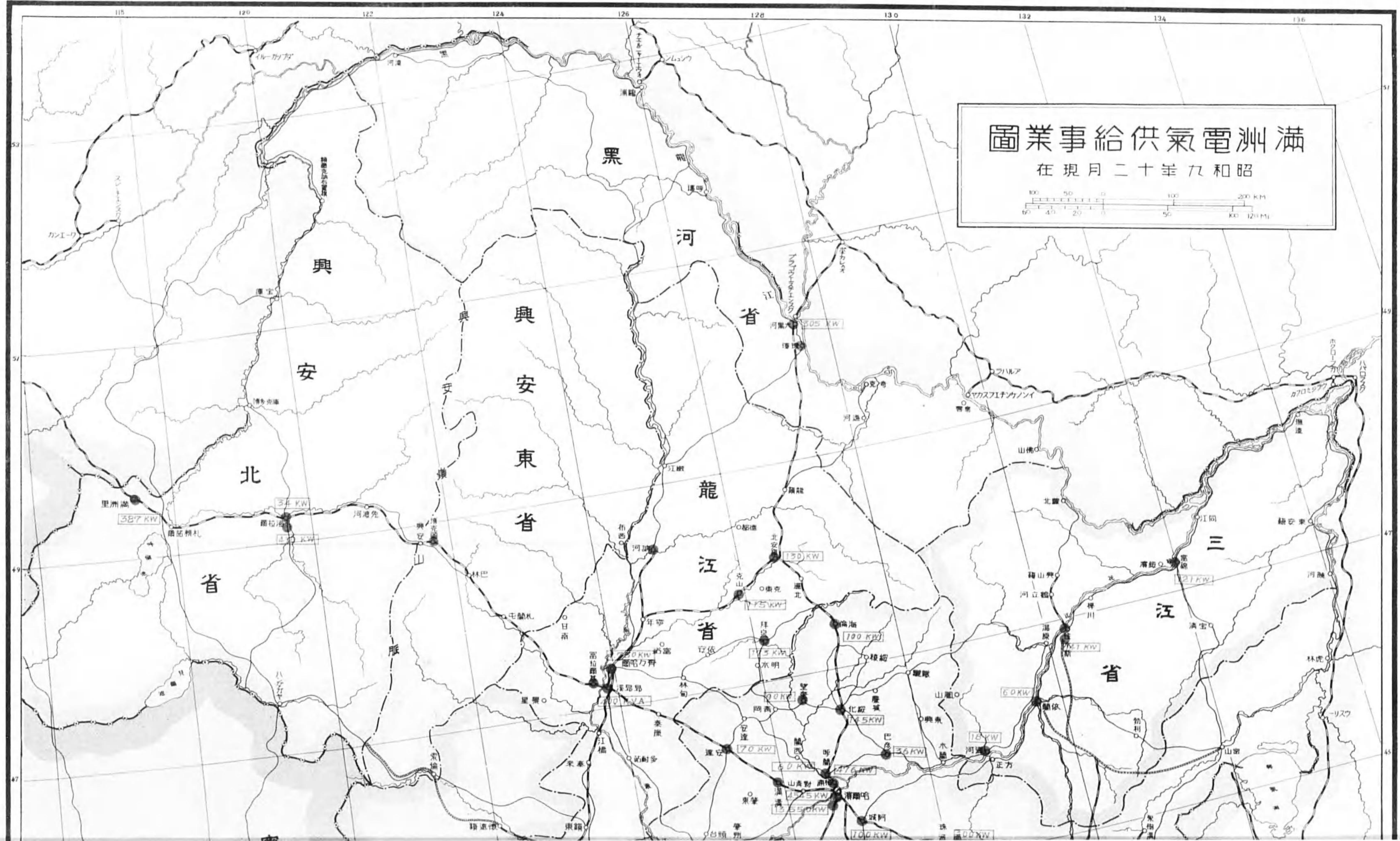


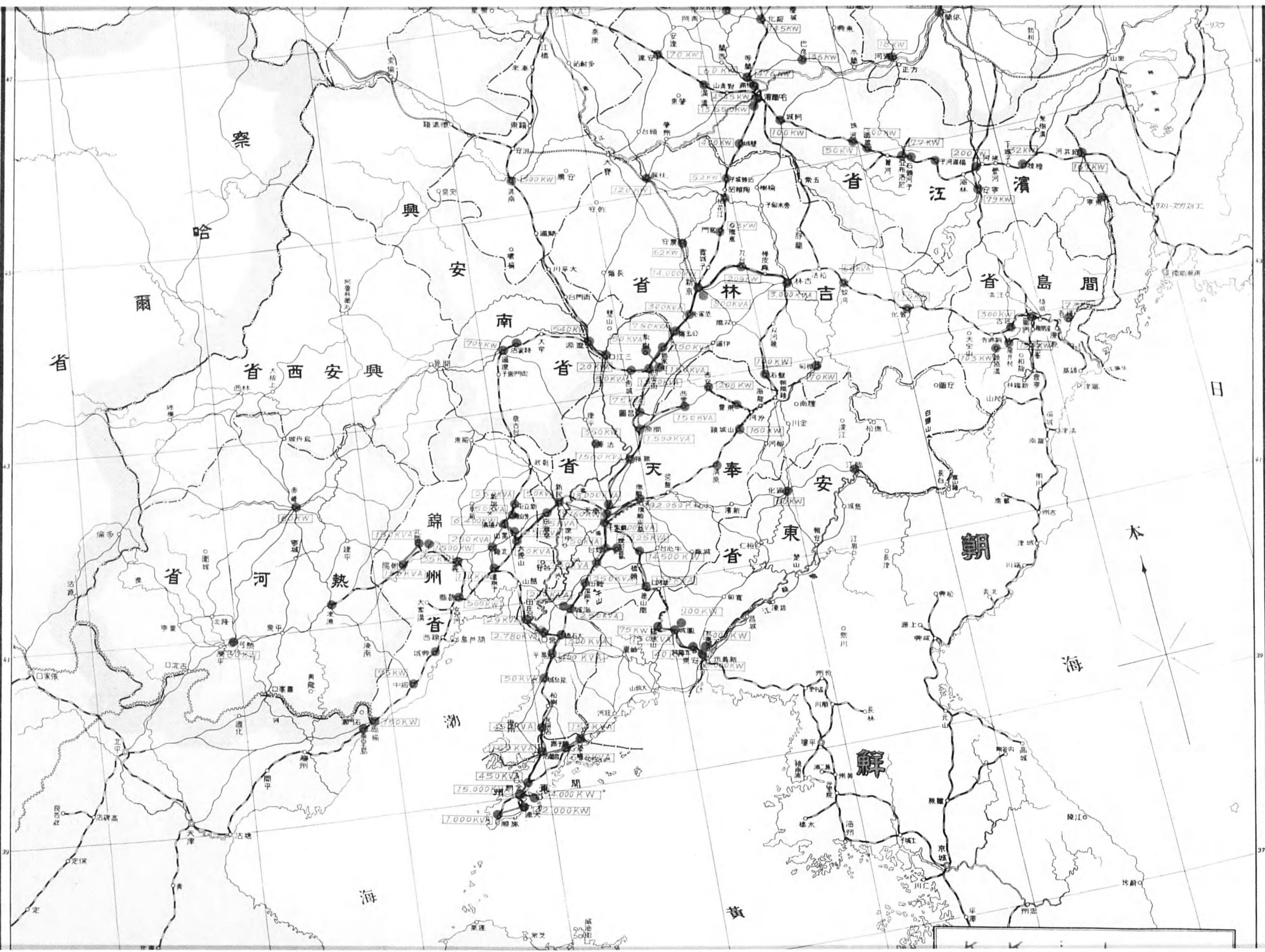
滿洲洲電氣供給事業業圖

昭和九年十二月現在



露光量違いの為重複撮影





察

哈

爾

省

省 西安興

興

安

南

省

省

林

吉

省

江

濱

省

島

日

省

天

奉

安

東

朝

省

河

熱

錦

州

省

省

東

海

木

渤

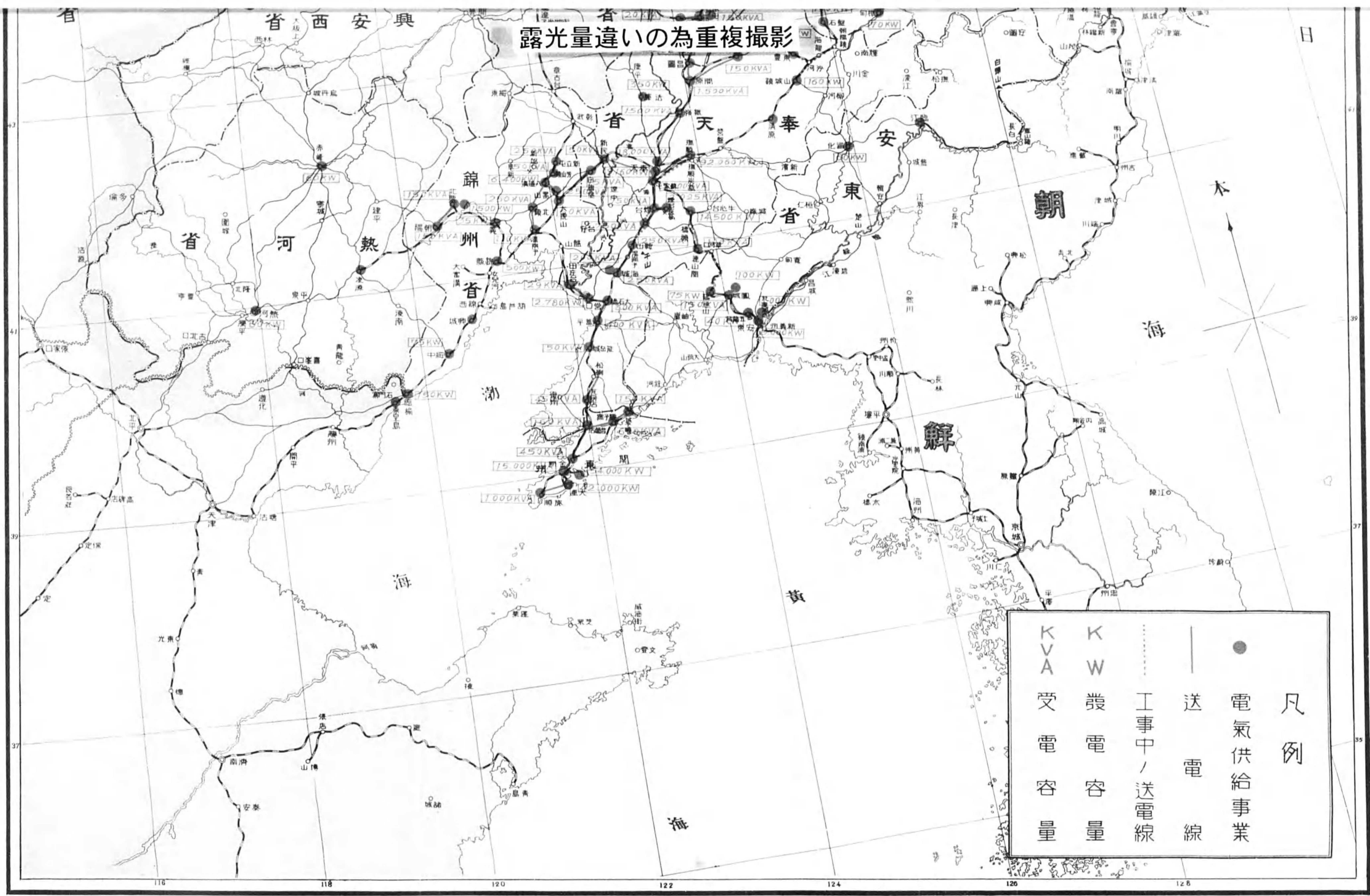
鮮

黃

海



露光量違いの為重複撮影

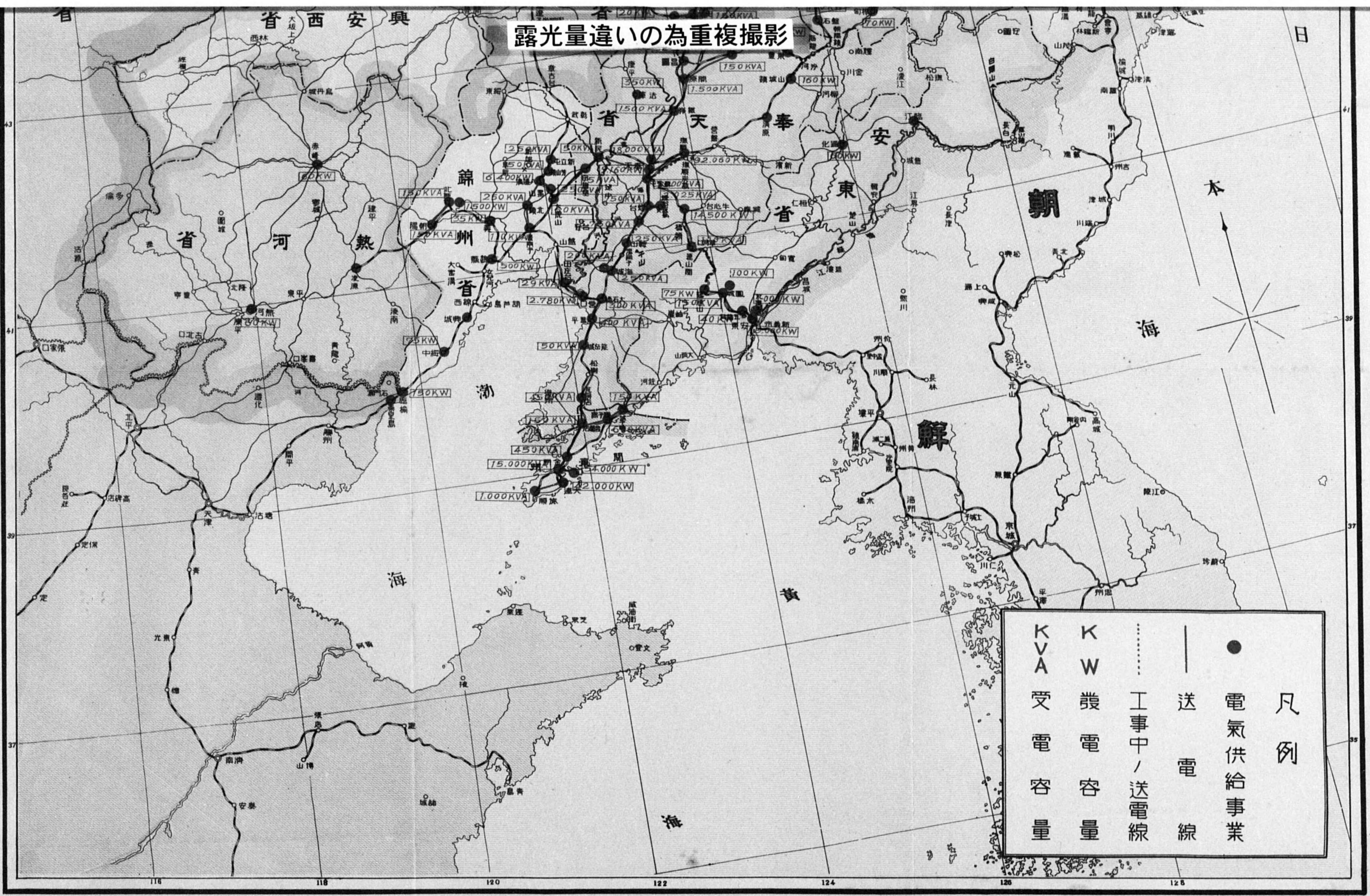


●	電氣供給事業
—	送電線
---	工事中ノ送電線
○	受電容量
○	發電容量

凡例

滿洲電業股份有限公司調査課

露光量違いの為重複撮影



●	電氣供給事業
—	送電線
⋯	工事中ノ送電線
KVA	受電容量
KW	發電容量

凡例

滿洲電業股份有限公司調查課

# 營業便覽

昭和9年12月現在

電燈	電力		電熱		地名	事業者名	資本系統	形態	開業年	代表者	發受電容量	原動力	電壓		周波數	電燈		電力		電熱	
	需要家數	燈數	需要家數	容量									需要家數	容量		高壓	低壓	需要家數	燈數	需要家數	容量
50	1,061	5,291	4	38.00	海巴	海倫電燈廠	滿	官營	昭和2年	王嘉辰	100	汽	3,300	220	50	502	3,710				
	532	3,434	4	1.95		海彥星電燈廠	滿	民營	昭和5年	傅宗周	36	瓦		220	直流		952				
60	229	1,234			錦州	滿洲電業局北票出張所	日滿	民營	昭和9年	村井初雄		受	3,300	100		373	2,100				
直流	446	2,223	2	16.50		滿天電業局朝陽出張所	日滿	民營	昭和9年				受				635	4,926			
直流		1,238			北朝綏中	綏中電燈股份有限公司	日滿	民營	昭和8年	溝口茂男	75	油	3,300	100	50	420	2,486				
50		2,500				綏中電氣股份有限公司	日滿	民營	大正8年	蘇廣倫	500	汽	2,300	110	60	2,640	27,796	51	396.00		
直流		406			錦八道	錦八道電氣廠	滿	官營	大正13年	武谷信吉	6,400	汽	35,000	220	50		11,072		491.00		
50	601	2,245	1	7.50		義縣電燈廠	滿	民營	大正11年	商務會	35	汽	6,600	220	直流		200				
					東省	興城電燈公司	滿	民營			75	油	3,300	200	100		1,700				
50	5,191	32,664	104	1,549.20		滿洲電業安東支店	日滿	民營	昭和9年	高原漸	13,000	汽	3,300	110	50	17,185	78,218	459	12,061.10	120	215.96
60	1,473	12,140	14	161.00	安東	同安東支店	日滿	民營	昭和9年			受	3,300	110	50	720	2,859	3	21.50		
50	608	5,071	6	41.00		同岫巖營業所	日滿	民營	昭和9年												
50	457	2,026			冠嶽	同岫巖營業所	日滿	民營	昭和9年												
直流	218	823				同臨江營業所	日滿	民營	昭和9年			150	汽			50		4,650			
50		2,000			鳳通	鳳城電燈股份有限公司	日滿	民營	大正14年	王銘玉	100	汽	2,300	100	50	324	1,662	1	10.00		
	306	3,710	1	3.00		通化電燈股份有限公司	滿	民營	大正13年	解起雲	60	汽	2,300	110	60		1,700				
50	555	2,904			閩島	延吉電業股份有限公司	日滿	民營	昭和8年	牟禮勝	300	汽	3,300	100	50	1,240	5,249	5	75.00	1	5.00
						延吉電業圖們支店	日滿	民營	昭和8年				受				752	5,196	1	7.90	
50	34,792	321,630	1,485	11,137.00	龍井	同朝陽川出張所	日滿	民營	昭和8年			受				318	1,210				
						大興電氣股份有限公司	滿	民營	大正13年	武卓廉	160	瓦	3,500	110	50		3,020				
50	489	3,409	1	15.00	頭道	旭春電燈公司	滿	民營	大正11年	孔憲琳	73	瓦	3,300		50	600	1,200				
直流	120	504				延吉頭道溝聚盛勇電膠廠	滿	民營	昭和6年	張斌	103	瓦		110	直流		300				
50	725	3,400			三江	滿洲電業佳木斯營業所	日滿	民營	昭和9年		130	汽	3,300	100	50	8	1,912	1	2.00		
50	221	2,712				依蘭電業股份有限公司	日滿	民營	昭和7年		受	75	受			50	552	3,245			
50	499	2,204			佳木	景增源電燈廠	滿	民營	昭和2年	徐景峰	141	汽		220	直流	576	2,256				
直流		513				東興德大店電燈廠	滿	民營	大正5年		96	汽	5,250	230	50	574	2,800				
50	178	840			通河	通河電燈廠	滿	官營			18	汽					60				
直流	870	3,920	6	89.50		恒曜電燈電力股份有限公司	滿	民營	大正5年	梁官臣	305	汽		250	直流	840	2,051				
50		1,000			黑河		滿	民營			21.5	汽									
50		1,322				通海滿洲里爾圖	日滿	民營	昭和9年	李純厚	700	汽	2,300	220	60	852	7,632	13	248.00		
50		1,800			通海	滿天電業局通遼出張所	日滿	民營	昭和9年	山田猛	34	汽		110		8	534				
50		2,000				滿洲里市電燈廠	滿	公營	明治39年	孟憲惠							1,049	6,380	11	81.00	
50		850			滿海	滿洲里市電燈廠	滿	官營	大正2年	劉獻延							5,061		220.00		
50	869	4,997				滿海拉爾電燈廠	滿	民營		チデマ											
50	230	720			博克圖																

滿洲電業股份有限公司調查課

滿洲二於ケル電氣供給事業便覽

Table with columns for power type (汽受, 汽油), voltage (電壓), frequency (周波數), and categories like lighting (電燈), power (電力), and heat (電熱). It lists various companies and their electrical supply details across different regions.

滿洲ニ於ケル

Table with columns for location (地名), operator name (事業者名), capital system (資本系統), form (形態), opening year (開業年), representative (代表者), receiving capacity (受電容量), power source (原動力), voltage (電壓) including high and low, frequency (周波數), number of households needed (需要家數), number of lamps (燈數), power capacity (電力容量), heat capacity (電力容量), and location name (地名), operator name (事業者名), capital system (資本系統), form (形態), opening year (開業年), and representative (代表者).

備考

1. 發受電容量欄受ハ受電容量ヲ示シ他ハ發電容量ヲ示ス
2. 發電容量ハKW受電容量ハKV Aヲ單位トス

### 調査課調査資料刊行物目録

- 第一輯 北鐵鐵道沿線に於ける電氣事業概況……………(既刊)
- 第二輯 滿洲國內電氣企業計畫經過概要……………(絶版)
- 第三輯 滿洲に於ける自家用發電所……………(既刊)
- 第四輯 滿洲に於ける電氣事業概説……………(發刊)
- 第五輯 ソヴェート聯邦に於ける電氣事業概説……………(未刊)
- 第六輯 滿洲及中國に於ける輸入電氣用品に關する調査……………(未刊)
- 第七輯 中華民國に於ける電氣事業……………(未刊)
- 第八輯 主要電氣會社職制集……………(未刊)
- 第九輯 中華民國電氣事業第一卷(江蘇省浙江省)……………(未刊)
- 第十輯 同 第二卷(河北省山東省)……………(未刊)
- 第十一輯 中華民國に於ける電氣事業法規集(第一編)……………(未刊)
- 第十二輯 同 (第二編)……………(未刊)
- 第十三輯 同 (第三編)……………(未刊)
- 第十四輯 最近十箇年電氣關係主要文獻目録……………(未刊)

14.5  
415

終